

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2026年6月30日
【事業年度】	第74期（自 2025年4月1日 至 2026年3月31日）
【会社名】	日本ドライケミカル株式会社
【英訳名】	Nippon Dry-Chemical CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 亀井 正文
【本店の所在の場所】	東京都北区田端六丁目1番1号
【電話番号】	(03)5815-5050
【事務連絡者氏名】	企画・IR部長 矢尾 拓麻
【最寄りの連絡場所】	東京都北区田端六丁目1番1号
【電話番号】	(03)5815-5050
【事務連絡者氏名】	企画・IR部長 矢尾 拓麻
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第70期	第71期	第72期	第73期	第74期
決算年月	2022年3月	2023年3月	2024年3月	2025年3月	2026年3月
売上高 (千円)	44,793,090	50,224,931	55,878,150	55,727,078	60,518,763
経常利益 (千円)	2,777,630	3,950,060	5,180,276	5,817,169	8,232,320
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	1,890,844	2,539,042	3,287,384	3,958,283	5,083,544
包括利益 (千円)	1,686,744	3,221,907	4,449,072	3,823,242	6,443,964
純資産額 (千円)	19,700,779	23,352,318	27,048,209	30,517,857	36,356,916
総資産額 (千円)	41,451,742	47,900,827	54,029,246	50,939,579	57,023,919
1株当たり純資産額 (円)	600.75	690.69	830.08	956.35	1,158.29
1株当たり当期純利益金額 (円)	67.52	91.63	120.38	147.67	189.61
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	40.6	39.8	41.2	50.3	54.5
自己資本利益率 (%)	11.5	14.1	15.9	16.5	17.9
株価収益率 (倍)	6.44	4.89	5.57	6.83	12.92
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	3,174,591	120,186	1,145,039	8,942,669	3,416,716
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	2,068,911	1,728,664	330,717	1,019,985	696,207
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	100,298	15,760	76,297	3,361,717	1,663,376
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	5,549,896	4,006,198	4,993,096	9,502,542	10,596,990
従業員数 (人)	1,038	1,104	1,150	1,157	1,195
(外、平均臨時雇用者数)	(105)	(109)	(117)	(109)	(112)

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 当社は、2026年4月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。第70期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第70期	第71期	第72期	第73期	第74期
決算年月	2022年 3月	2023年 3月	2024年 3月	2025年 3月	2026年 3月
売上高 (千円)	34,284,744	38,099,704	43,014,410	43,239,299	49,042,557
経常利益 (千円)	2,385,673	3,233,481	4,491,544	4,869,338	7,524,240
当期純利益 (千円)	1,657,019	2,289,099	3,048,201	3,562,062	4,971,873
資本金 (千円)	700,549	700,549	700,549	700,549	700,549
発行済株式総数 (千株)	7,181	7,181	7,181	7,181	7,181
純資産額 (千円)	15,016,662	16,931,353	19,648,734	22,889,729	28,129,176
総資産額 (千円)	31,666,674	36,316,694	42,426,540	38,605,360	44,231,413
1株当たり純資産額 (円)	536.22	613.35	733.04	853.96	1,049.02
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	30.00 (12.50)	38.00 (12.50)	50.00 (15.00)	70.00 (15.00)	90.00 (35.00)
1株当たり当期純利益金額 (円)	59.17	82.61	111.63	132.89	185.44
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	47.4	46.6	46.3	59.3	63.6
自己資本利益率 (%)	11.5	14.3	16.7	16.7	19.5
株価収益率 (倍)	7.35	5.43	6.01	7.59	13.21
配当性向 (%)	12.7	11.5	11.2	13.2	12.1
従業員数 (人) (外、平均臨時雇用者数)	740 (102)	751 (102)	781 (106)	788 (106)	807 (108)
株主総利回り (比較指標：配当込みTOPIX) (%)	104.1 (102.0)	109.4 (107.9)	164.6 (152.5)	248.3 (150.2)	592.5 (202.2)
最高株価 (円)	2,460	1,819	3,105	4,585	13,220
最低株価 (円)	1,595	1,400	1,613	2,151	3,070

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 最高株価及び最低株価は、2022年4月4日より東京証券取引所スタンダード市場におけるものであり、それ以前については東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

3. 当社は、2026年4月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。第70期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。なお、1株当たり配当額については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

2【沿革】

年月	事業の変遷
1955年4月	日本ドライケミカル(株)を設立(東京都港区浜松町)、粉末消火器、粉末消火設備及び自動火災報知設備の製造、販売を主業として創業
1956年5月	大阪営業所を開設(現大阪支店)
1957年3月	東京都中央区銀座に本社を移転
1957年3月	旭硝子(株)(現、AGC(株))が資本参加
1958年12月	名古屋営業所及び札幌出張所を開設(現名古屋支店及び札幌支店)
1959年2月	仙台出張所を開設(現東北支店)
1963年10月	福岡駐在員事務所を開設(現九州支店)
1971年2月	千葉県松尾町に千葉工場を開設、及び場内に実験センターを設置
1975年6月	(株)京葉消防保守センター(現、日本ドライメンテナンス(株))を設立
1981年2月	プレスト産業(株)を吸収合併
1984年4月	宮田防災工業(株)(子会社)を完全子会社化し、北海道ドライケミカル(株)に社名変更
1991年9月	東証第二部上場
1992年7月	東京都品川区東品川に本社を移転
1995年6月	東証第一部上場
1999年10月	本社設備部門がISO9001認証を取得
2000年9月	公開買付により、タイコ システムズ ジャパン(株)が当社株式の92%を取得
2000年12月	株式交換を実施し、タイコ システムズ ジャパン(株)が当社株式を100%取得、上場廃止
2001年6月	東京都品川区勝島に本社を移転
2002年10月	タイコファイヤーアンドセキュリティージャパン(株)を吸収合併
2003年10月	千葉圧力容器製造(株)を完全子会社化
2008年2月	大和証券エスエムビーシープリンシパル・インベストメント(株)が、(有)ディー・エス・エムインベストメントドセを通じて当社株式を取得
2009年3月	千葉工場消火器製造・車輛製造部門及び車輛営業部門がISO9001認証を取得
2009年10月	(有)ディー・エス・エムインベストメントドセを吸収合併
2011年6月	東証第二部上場
2012年3月	環境マネジメントシステム「ISO14001」認証を取得
2012年5月	戦略的パートナーとして(株)初田製作所と基本業務提携契約を締結
2012年8月	(株)イナートガスセンターを設立
2012年10月	沖電気防災(株)を子会社化
2013年2月	新日本空調(株)と資本業務提携契約を締結
2013年10月	東京都港区台場に本社を移転
2013年12月	東証第一部上場
2014年8月	沖電気工業(株)と資本業務提携契約を締結
2014年10月	沖電気工業(株)が保有する沖電気防災(株)の株式取得により完全子会社化
2015年1月	沖電気防災(株)から(株)ヒューセックに社名変更
2016年2月	総合警備保障(株)(現、ALSO(株))と資本業務提携契約を締結
2016年3月	福島県福島市に福島工場を開設
2016年10月	(株)ヒューセックを吸収合併
2017年11月	(株)始興金属を完全子会社化
2018年11月	広伸プラント工業(株)を完全子会社化
2019年3月	(株)始興金属からNDC Korea(株)に社名変更
2020年2月	東京都北区田端に本社を移転
2022年4月	東京証券取引所の市場区分見直しにより、東京証券取引所市場第一部からスタンダード市場に移行
2023年6月	NDC Korea(株)からM-tech(株)に社名変更

3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社（日本ドライケミカル株式会社）及び関係会社7社により構成されており、各種防災設備の設計・施工・保守点検、消火器及び消火設備、消防自動車、自動火災報知設備の製造・販売、防災用品の仕入・販売等の防災事業を行っております。

当社グループは1955年4月の当社設立以来、粉末消火剤を用いた消火器及び消火設備の開発、販売を始めとして、商業ビル等の一般建築物、複合用途の建築物、危険物施設のあるプラント、工場、船舶等に各種消火器及び消火設備等を納入し、さらにこれらの設備の保守点検等のサービスも合わせた、人々に安心と安全を提供する総合防災企業として事業を行ってまいりました。

当社グループが行っている防災に関するすべての事業は、設計、製造、施工、検査、保守点検に至るまで消防法をはじめとする法律及び関連する法規制に従って行われております。そのため、製品に対しては日本消防検定協会等の公的な第三者機関から製品型式を取得し、製造毎の個別検査を受け合格することが義務付けられております。また、防災設備の設置場所における消防検査に合格することも義務付けられております。

当社グループは、消火器、消火設備、自動火災報知設備等のほとんどを自社ブランドで取り扱っており、大型の消火薬剤タンク等の消火設備、各種消火器及び消防自動車、自動火災報知設備の受信機等を自社工場で生産しております。

なお、当社グループは、各種防災設備の設計・施工・保守点検、消火器及び消火設備、消防自動車、自動火災報知設備の製造・販売、防災用品の仕入・販売等の防災事業を行っており単一セグメントであるため、事業の内容について営業種目別に記載しております。

当社グループでは、取り扱う製品、商品及びサービスの商流に合わせて、防災設備事業、メンテナンス事業、商品事業の3つの営業種目に区分し、顧客層に応じた販売部門を組織しております。

(1) 防災設備事業

防災設備事業では、建築防災設備、プラント防災設備、船舶防災設備における各種防災設備の設計・施工、各種消防自動車の製造・販売を行っております。

当社は、各種防災設備の設計・施工をするほか、千葉工場において各種防災設備の容器を製造し、福島工場において各種自動火災報知設備の受信機等を製造しております。

建築防災設備

一般建築物の防災設備は、消防法によりその設置が義務付けられており、かつ設置基準が詳細に定められておりますが、その中で当社は一般建築物の高層化・高度化・短工期化に対応する施工管理能力の強化、自社開発のコスト管理システムによる厳正な原価管理、施工実績や設置基準に効率的に適合させるための知見を活用した設計の見直し提案等を行っており、これらの施工管理能力・提案能力等により再開発物件や大型物件を受注し施工しております。

一般建築物の主な防災設備は以下のとおりであります。

- ・ 事務所、会議室、廊下にはスプリンクラー設備
- ・ 電気・機械室にはガス系消火設備
- ・ 地下駐車場には泡消火設備（寒冷地は凍結事故を考慮して粉末消火設備も多い）
- ・ 立体駐車場にはガス系消火設備
- ・ 全体的には消火栓設備、消火器、自動火災報知設備

プラント防災設備

当社の施工納入するプラント防災設備は、主として危険物施設である火力発電プラント、石油プラント、石油化学プラント及びそれらに関わる工場、倉庫、移送施設（棧橋等）等に設置するものであり、個々に顧客の要望、過去の実績、消防の要求等を考慮して設備仕様が決定されます。

危険物とは主として石油類であります。平面的な火災には泡消火設備、立体的な火災には粉末消火設備、水噴霧消火設備、密閉された施設にはガス消火設備等それらの形に最も適した防災設備を設置することが重要です。

その他には原子力発電プラント、最近ではバイオエタノールプラントにも対応しております。

船舶防災設備

船舶用防災設備は、その船自体のエンジン室火災等に対応して設置するものと、別の船の火災を消火するための設備である他船消火設備があります。

船舶用防災設備は船舶安全法、海上人命安全条約、船級協会等の規定により義務付けられております。また、警戒船として稼働しているタグボート等に搭載される他船消火設備は、海上保安庁告示第29号第2条に記載された設備の設置を義務付けられております。

船舶用防災設備は主として機関室及び貨物倉の消火設備として二酸化炭素消火設備、ガス運搬船の甲板部の消火設備として粉末消火設備があります。二酸化炭素消火設備・粉末消火設備は当社の主力製品であります。

また、タグボートや消防船のように他船舶の火災の消火活動に従事する船舶には泡水消火設備、粉末消火設備が設置されます。

船舶用自動火災報知設備は、普通型の火災探知機に加え防爆型、赤外線式炎探知機などがあり、タンカーや客船など用途に応じた船舶用防災システムを構築しております。

車輛

各種消防自動車の製造・販売を行っております。

当社は千葉工場及び協力会社において、購入したトラックシャシーに、顧客の要求する仕様に合わせた各種装置の艤装を行い、消防自動車として納入しております。当該装置には、自社開発の無給油式グランドパッキンを採用してメンテナンス性を向上した消防ポンプ、従来付属していた補器類を不要にすること等でメンテナンス性を向上した無給油式真空ポンプ、電子スロットル装置、化学消防自動車用の自動混合装置等があります。また、消防自動車に積載する動力消防ポンプや電動ホースカー等の製造・仕入・販売を行っております。

主要な顧客は、地方自治体であり、購入する消防自動車の多くが古い車輛の交換需要によるものであります。

(2) メンテナンス事業

メンテナンス事業では、各種防災設備の保守点検業務及びそこから派生する修繕及び改修工事を行っております。メンテナンス事業は、当社及び子会社の北海道ドライケミカル株式会社が行っております。

防災設備の点検は消防関係法令に規定されており、定期的な点検、維持管理が建物所有者等に義務付けられています。メンテナンス事業は当社防災設備事業で納入した各種防災設備のみならず、あらゆる既存防災設備の点検を行っております。また、点検で発見された不具合箇所の修理、改修工事、部品・機器の交換も行っており、更には老朽化した設備のリニューアル提案による大規模改修工事に至るまで建物の維持管理の為の一連のサービスを提供しております。

(3) 商品事業

商品事業では、各種消火器の製造・販売、各種防災用品の仕入・販売、各種防災設備の小型工事を行っております。各種消火器及び各種防災用品の販売、各種防災設備の小型工事案件につきましては、主に販売代理店を介して行っております。商品事業は、当社及び子会社の北海道ドライケミカル株式会社が行っております。

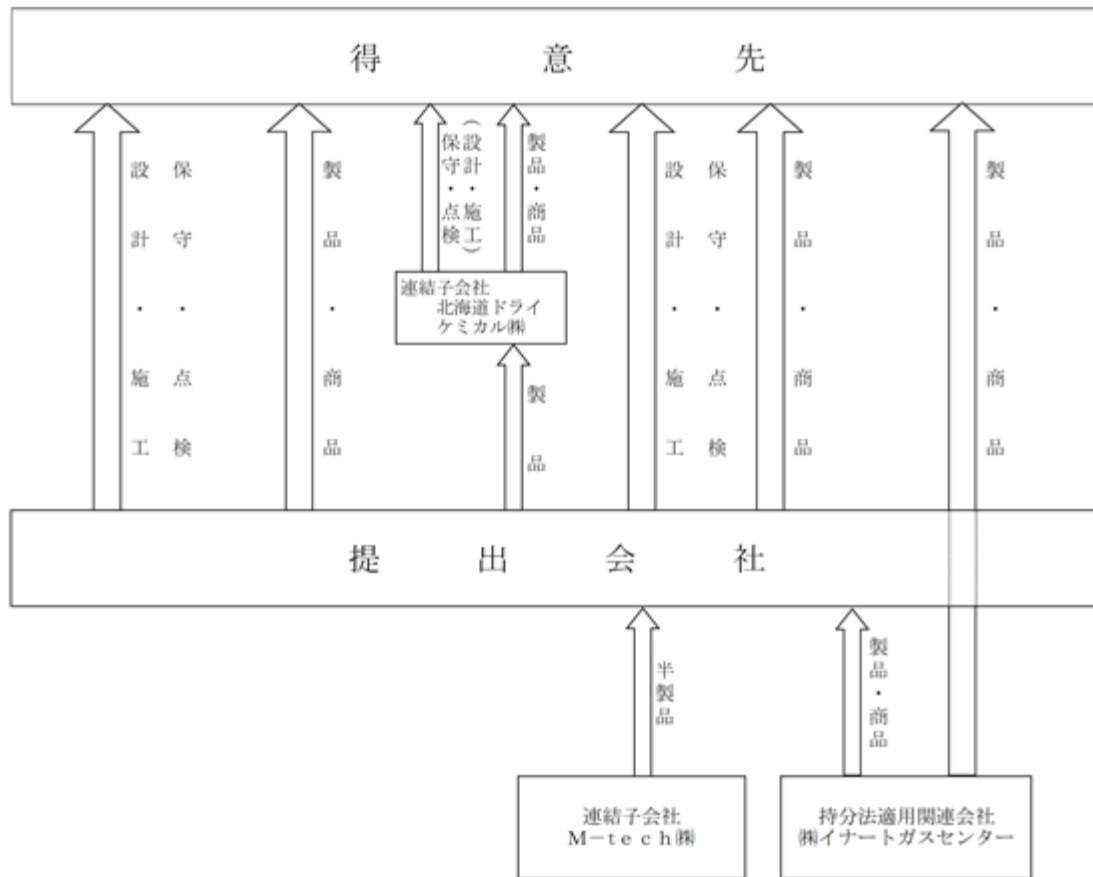
当社は1955年4月に、粉末消火器の製造、販売を目的に設立され、以降各種消火設備等の開発、製造、施工、販売と事業を広げてまいりました。

当社グループは、日本で初めてアルミ製容器を、市場で最も流通しているABC粉末消火器10型をはじめとした多くの製品に採用してまいりました。このアルミ製容器を用いた消火器は、軽くて耐食性に優れ、リサイクル性が高く環境にやさしいという利点があります。

また、当社千葉工場で生産している各種消火器及び消火薬剤が販売の主体であります。火災を事前に発見する各種自動火災報知設備機器、その他防災用品である避難器具、消防ホース等の消火設備用機器、更に非常時に必要となる防災グッズ、非常用食料、消耗品としての誘導灯、受信機、制御盤等の非常用バッテリー等も売上の多くを占めております。

なお、当社グループの事業系統図は以下のとおりとなっております。

[事業系統図]



4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容
(連結子会社) 北海道ドライケミカル株式会社	北海道札幌市白石区	30百万円	防災設備事業、メンテナンス事業、商品事業	100.0	当社製品の販売 資金の貸借、事務所の貸借 管理業務支援 役員の兼任 2名
M - t e c h株式会社 (注)1.	大韓民国 京畿道安山市	850百万 韓国ウォン	商品事業	100.0	半製品の仕入れ 資金の貸借 役員の兼任 2名
その他4社					
(持分法適用関連会社) 株式会社イナートガスセンター	千葉県山武市	60百万円	防災設備事業、メンテナンス事業	50.0	製品の仕入れ 資金の貸借、土地の貸借 管理業務支援 役員の兼任 2名

(注)1. 特定子会社に該当しております。

2. 当社は、2025年10月1日付で、日本ドライメンテナンス株式会社を吸収合併いたしました。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当社グループの経営方針、経営環境及び対処すべき課題等は、以下のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営の基本方針

当社グループは、企業理念として「創ろう ゆたかで安心な未来を テクノロジーで」をパーパスとし、次のミッションを掲げております。

安心・安全	消火・防災のプロフェッショナルとして、ステークホルダーの皆様とともに社会に安心と安全を提供し続けていきます
テクノロジー	社会の変化に適応した新しい発想とテクノロジーで消火・防災を科学し、防災の未来をエンジニアリング力で創っていきます
人財育成	ゆたかで安心な未来の実現に向けて、次世代の消火・防災へつなぐ自律型人財の育成に情熱を持って取り組んでいきます

当社グループは、お客様、株主・投資家、お取引先・事業パートナー、地域社会、従業員などすべてのステークホルダーに対する社会的責任を果たし、持続的な企業価値の向上に努めてまいります。

(2) 目標とする経営指標

当社グループは、持続的な成長を実現するための経営基盤の強化および高付加価値・成長領域への事業拡大を中期経営方針としており、事業利益の拡大、E B I T D A マージンの向上およびR O E の高水準維持を中長期的な目標として定めております。

(3) 中長期的な会社の経営戦略

当社グループは、1955年4月の会社設立以来、粉末消火設備をはじめとして各種防災設備の設計・施工・メンテナンス、消火器を主力商品とする防災機器の製造・販売を主たる目的として事業を行ってまいりました。その後、消防自動車の製造及び販売、各種自動火災報知設備の設計・施工、火災報知関連機器の製造・販売等の事業を加えて、防災事業の領域を広げてまいりました。

現代社会において、各種のインテリジェントビル、商業ビル、高層マンション等さまざまな都市構造物、発電所、工場等のプラント施設、各種の公共施設、福祉施設、更には一般家庭等における防災や安全に対するニーズはますます高まっており、その内容は高度化、多機能化、多様化が求められております。それら市場の要請の変化、動向に対して、当社グループとしてソフト、ハード両面から適時、適切に対応していくために、設計・施工の総合力を強化し、エンジニアリング力を高めていくとともに、環境への対応を最優先に、環境にやさしい新製品、新防災システムの開発にも取り組んでいく方針であります。

このような状況のもと、当社グループは中長期的な会社の経営戦略として「NDCビジョン2035」を掲げ、その中でも2026年3月期から2030年3月期までの5年間で、当社グループの変革を実現するステージと位置付け、中期経営計画『変革と成長2030』（以下、「本計画」といいます。）を推進しております。

本計画では、持続的な成長を実現するための経営基盤の強化および高付加価値・成長領域への事業拡大を中期経営方針とし、各施策に取り組んでおります。

< 経営基盤の強化 >

・人財・組織

職種と専門性から目指すべき人財ポートフォリオを明確にし、その実現に向けて人的資本投資を進めてまいります。

・IT / DXの推進

案件 / 物件統合管理システムの導入による、情報一元化および生産性の向上、業務効率の改善を図り、更なる成長を目指します。

・研究開発の推進

環境対応等の社会的要請および法令に対応した製品・システムの開発を引き続き実施し、消火防災のコア技術であるセンシングと消火を融合し、新たなソリューションを開発してまいります。

- ・製造・開発拠点の整備拡充

開発研究拠点である技術開発第1研究所（千葉）、技術開発第2研究所（福島）の整備拡充により研究開発環境の充実を図り、先進的かつオリジナリティのある製品やシステムの開発スピードを向上してまいります。

福島工場および千葉工場では場内レイアウトを見直すことで生産高および生産性の向上を図り、新たに開発する製品の生産設備導入を計画してまいります。

<高付加価値・成長領域への事業拡大>

- ・防災設備事業

建築防災のコア市場におけるトップポジションの確立を目指し、データセンター、半導体関連案件に加え、都市部を中心とした大規模再開発案件等の受注推進およびエンジニアリング力の更なる強化に注力します。

プラント事業領域の拡大により収益基盤の増強を目指し、新規発電所/水素・アンモニアプラント等の新設プラント物件に加えて、既設プラント物件の改良工事や環境配慮型泡消火薬剤関連案件等の受注推進に注力します。

- ・メンテナンス事業

高付加価値であるメンテナンス事業の拡大を目指し、事業基盤の再編成とグループ内における事業部間連携の強化を図り、当社グループ施工物件の点検および既存物件の設備機能維持・向上のための改修工事受注推進と当社に優位性がある特殊物件のメンテナンス契約獲得に注力します。

- ・商品事業

消火器、火災報知関連機器の販売に加え、火災予防の普及促進を目指し、顧客ニーズに沿った自社開発製品を拡販してまいります。また、協会会社のネットワークを拡充し、代理店ネットワークを活かした小型工事事件の受注拡大にも注力します。

本計画の取り組みを通じて、2030年3月期の計画値を次のように設定し、資本コストを意識した経営及び持続的な企業価値の向上を実現してまいります。

- ・事業利益 80億円
- ・EBITDAマージン 12%以上
- ・ROE 12%以上の維持

(4) 対処すべき課題

当社グループは、パーパス「創ろう ゆたかで安心な未来を テクノロジーで」のもと、長期ビジョン「NDCビジョン2035」のうち、最初の5か年計画である中期経営計画『変革と成長2030』を推進しております。当該計画のなかで、持続的な成長を実現するための経営基盤の強化および高付加価値・成長領域への事業拡大が最重要と考えており、独自の防災製品・防災システムを開発するための研究開発体制および人材育成の強化、コア・ビジネスであるエンジニアリング力の強化を図ってまいります。とりわけ、火災を未然に防ぐ「火災予防」の分野に注力し、自動消火を目指した製品開発へのイノベーション、イメージネーション力の向上に努め、将来の社会ニーズに合う製品およびサービスを提供してまいります。

それらを実現するために、千葉工場内の技術開発第1研究所では新たな消火設備・システムの開発に加えて、新素材の基礎研究を始め、低環境負荷の消火薬剤や次世代エネルギー向け消火システム等の研究開発に取り組んでおります。福島工場内の技術開発第2研究所では、新たな自動火災報知設備・機器の開発に加えて、火災判定アルゴリズムの基礎研究を始め、次世代の火災予兆検知に関するセンシング技術を中心とした研究開発を推進しております。

当社グループは引き続き、社会の変化に適応する新しい発想とテクノロジーで、次世代の防災を創造し、世の中に安心・安全を提供するとともに、環境に配慮した、より良質な社会インフラを構築するという社会的使命を果たすべく、グループ一丸となって取り組んでまいります。

2【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社グループの、サステナビリティに関する考え方及び取組は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

当社グループは、「創ろう ゆたかで安心な未来を テクノロジーで」をパーパスとして、世の中に安心・安全を提供するという社会的使命を果たすために、次世代の防災を創造し、より良質な社会インフラを構築することにより、持続可能な環境・社会の実現に貢献するとともに、持続的な企業価値の向上に努めてまいります。

(1) ガバナンス

国際情勢や社会環境が大きく変化し、これまでも増して環境に対する社会の意識が高まり、当社グループを取り巻く環境も大きく変化しております。

このような状況の下、当社グループは、サステナビリティを巡る課題への取組み及び人的資本や研究開発活動への投資及び気候変動、資源循環への対応等の経営課題について重要であると認識しており、代表取締役社長を委員長とするサステナビリティ委員会を中心にサステナビリティへの取組みを推進しております。詳細は、「第4提出会社の状況、4コーポレート・ガバナンスの状況等、(1)コーポレート・ガバナンスの概要」をご参照ください。

(2) 戦略

当社グループは、サステナビリティを巡る課題について審議等を行い、取組みを推進するための組織として、2025年4月にサステナビリティ委員会を発足いたしました。また、当社グループの将来の企業活動に関連性の高い環境・社会課題をリストアップし、それらの課題を評価したうえで、重要性の観点により、以下のマテリアリティを特定しております。

「テクノロジーを活かした環境配慮型の製品開発」

「防災を通じた安心・安全な未来の実現」

「人材育成と社員の挑戦を促す組織づくり」

「持続的成長を実現する経営基盤の構築」

環境対応型社会の要請に応えるため、引き続き、環境にやさしい、リサイクルが容易なアルミニウム製消火器の開発、消火ガスおよび薬剤のリサイクル等の取組みを継続してまいります。また、環境に配慮した消火薬剤の開発、そしてそれらを用いた製品・システムの開発等、社会的責任を果たすことにグループ一丸となって取り組んでまいります。

さらに、従来型の消防防災にとどまることなく、火災を発生させない、火災をごく早い段階で感知する「火災予防」に注力してまいります。

人材育成及び社内環境整備に関する方針につきましては、人材育成は当社グループの最重要課題であると認識しており、職種と専門性から目指すべき人材ポートフォリオを明確にし、事業の高付加価値化を実現する人材の拡充に向けた新人事制度の構築を推進しております。具体的には、スキルマネジメントシステムの導入、スキルマップの活用および組織構成・人員配置の最適化を実施すること、採用・教育の面においては、採用チャネルの多様化および研修体制の強化により多様性を確保しつつ専門性を向上させ、従業員の自律性を尊重し働きがい追求してまいります。

また、当社グループは「健康経営」を標榜し、従業員の健康を経営上の重要な資産と捉え、健康的な生活の確保のため、定期健康診断の受診やストレスチェック制度等の実施を通じて、「健全な労働環境の確保」および「心身の健康実現」等に取り組む、健康経営優良法人認定制度により「健康経営優良法人 2026（大規模法人部門）」に2年連続で認定されました。さらに、フレックスタイム制度や在宅勤務制度等を整備し、従業員が働きやすい環境づくりに努めております。

なお、女性従業員の活躍が当社グループの持続的な成長を確保する上での強みとなることを認識しており、今後、女性従業員の活躍を推進できる社内環境づくりを拡大してまいります。

(3) リスク管理

当社グループは、サステナビリティを巡る課題への対応は、重要なリスク管理の一部であると認識しており、的確に対処するとともに、リスクの減少や収益機会につながるサステナビリティに関する課題及び気候変動等の地球環境問題についても、重要な経営課題として積極的に取り組んでまいります。

また、リスク管理委員会を設置し、リスク案件に関する協議・検討、新たなリスク要因への対応協議を行っております。詳細は、「第4提出会社の状況、4コーポレート・ガバナンスの状況等、(1)コーポレート・ガバナンスの概要」をご参照ください。

(4) 指標及び目標

当社グループは、中核となる人材の確保に向け、能力・成果主義に徹した人事制度を運用しており、性別・国籍による管理職への登用等の制限はせずに、女性管理職の登用及び外国籍の人材採用を進めるとともに、数値目標の設定を検討してまいります。

今後、多様性の確保に向けた人材育成方針・社内環境の整備方針の策定・開示も合わせて前向きに取り組んでまいります。

3【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況及び経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 事業環境について

景気変動リスクについて

当社グループは、各種防災設備の設計・施工・保守点検、消火器及び消防自動車の製造及び販売、防災用品の仕入・販売等の防災事業を行っており、消防法をはじめとした法規制及び製品耐用年数による安定的な買い替えにより、一定の需要が見込まれるため、メンテナンス事業及び商品事業は比較的景気動向の影響を受け難い特徴があると考えておりますが、想定を上回る経済情勢の変化、建設需要・設備投資の縮小、建設資材価格及び労務費等の急激な上昇等が生じた場合、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

防災設備事業への依存について

当社グループの売上高のうち、防災設備事業における売上高は全体に占める割合が高く、2026年3月期では60.8%を占めております。防災設備事業においては、設備投資動向、大規模再開発計画、新規供給物件動向、商業施設等の着工数等に左右されるため、建築投資案件の減少、設備投資計画の延期等の変化があった場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

また、当社グループは工事ごとに厳正な納期、工期及び原価の管理を行っていると考えておりますが、工程の大幅な変更、施工途中における設計変更や工事の手直し等、売上高の一部が翌連結会計年度にずれ込む場合、又は想定外の追加の費用が発生した場合等には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

四半期業績の偏重について

当社グループは、請負工事に関して、履行義務は一定の期間にわたり充足されると判断し、期間がごく短い工事を除き、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき収益を一定の期間にわたり認識しております。また、その他の工事物件について、履行義務は一時点で充足されると判断し、完全に履行義務を充足した時点（工事が完了した時点）で収益を認識しております。このため、工事の進捗状況又は工事完了等のタイミングにより業績が変動することから、特定の時期に業績が偏重する可能性があります。

なお、2026年3月期の各四半期の業績は以下のとおりです。

(単位：千円)

	第74期連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	通期
売上高	12,829,016	13,773,302	16,405,587	17,510,857	60,518,763
売上総利益	3,469,382	3,970,846	4,746,553	5,097,403	17,284,186
営業利益	1,448,245	1,939,645	2,577,465	2,020,276	7,985,631
経常利益	1,646,018	1,925,483	2,756,604	1,904,213	8,232,320
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	1,000,987	1,186,513	1,917,948	978,094	5,083,544

主要な事業活動の前提となる事項について

当社グループの主要な事業活動である防災設備事業及びメンテナンス事業は、建設業許可が必要であり、次のとおり建設業許可を取得しております。

- ・ 特定建設業許可（消防施設工事業）
- ・ 特定建設業許可（管工事業）
- ・ 一般建設業許可（機械器具設置工事業）
- ・ 一般建設業許可（電気通信工事業）

これらの建設業許可は5年ごとの更新が義務付けられており、本書提出日現在の許可の有効期限は2030年2月であります。

これらの建設業許可は、建設業法第8条及び同法第17条に欠格要件が規定されており、当該要件に抵触した場合、許可等の取消し、又は期間を定めてその業務の全部もしくは一部の停止等を命じられる可能性があります。

当社グループは、現時点において、許可等の取消し等の事由となる事実はありませんが、当該許可等の取消し等を命じられた場合には、社会的信頼の毀損や契約破棄等により、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

競合について

当社グループの営む各種防災設備の設計・施工・保守点検、消火器及び消防自動車の製造及び販売、防災用品の仕入・販売等の防災事業は、日本国内において同様の事業を営む企業と競合する関係にあります。このため、当社グループは新製品の開発及び販売チャネルの充実等に加え、当社グループに対する顧客からの信頼度が重要であると考えており、これらの向上に努めております。しかしながら、競合他社に対し優位性を維持出来なくなる場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

法的規制について

当社グループが提供する、各種防災設備の設計・施工・保守点検、消火器及び消防自動車の製造及び販売、防災用品の仕入・販売等の防災事業では、消防法及びその他関連法令により、防災設備等の設置および保守点検等が義務付けられております。今後、社会情勢等の変化により、法令の改正及び新たな法規制が設けられる可能性があります。この場合において、新たな需要を喚起し業績の向上に寄与する可能性があります。その一方で、当社グループの投資計画及び事業計画の大きな変更を余儀なくされ、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

製造物責任について

当社グループの消火設備、消火器及び消防自動車等に関する生産品の大部分は、日本消防検定協会による検定品及び日本消防設備安全センター等による認定品を提供しており、また、設置工事等については、消防検査の義務があるものは検査に合格して納入しております。当社グループ内においても徹底した品質管理に努めておりますが、リコールや製造物責任賠償につながる製品の欠陥が発生した場合には、賠償責任保険に加入しているため損害の一部はカバーされるものの、少なくとも社会的信用の失墜は避けられず、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

特定の生産拠点について

当社グループの各種防災設備、消火器及び消防自動車等の生産機能は、千葉工場及び福島工場の二拠点に集中しております。当社グループでは、安全及び安定操業の徹底を図り、製造設備の停止及び設備に起因する事故等による潜在的なマイナス要因を最小化するため、安全パトロールを強化し、設備工具の定期的な点検を実施しております。しかしながら、万が一製造設備で発生する事故及び自然災害等により人的及び物的被害が生じた場合には、コストの増加や生産活動の中断等により、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

外注先との関係について

当社グループは、消火設備工事等の施工・メンテナンスにおいて施工管理（品質管理・工程管理・コスト管理・安全管理）業務以外については基本的に外注しております。当社グループでは、自社の選定基準に合致する多数の外注業者と良好な関係を構築しているため十分な外注体制を構築していると考えておりますが、景気変動等にとまなう工事案件の急激な増加により外注先を十分に確保できない状況等が発生した場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

原材料・部品の調達について

当社グループは、原材料・部品の調達について複数の仕入先を確保するようにしておりますが、いくつかの主要な原材料について特定の供給元に偏重しております。このため、特定の原材料供給元の操業が停止すること等により、必要な原材料の調達が出来ない状況が発生した場合は、当該原材料に依存している製品の生産活動に著しい影響を与え、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

また、国内外の市場経済の動向等により、資材価格が上昇し、原材料調達状況に影響が及んだ場合、その状況を販売価格へ転嫁することが困難な場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

人材の確保について

当社グループの更なる成長のためには、新製品の開発及び既存製品の製造、工事施工管理、並びに製品等を販売するための有能な人材を確保する必要があります。そのため、当社グループでは社員研修制度等を整備し人材の育成に努めておりますが、人材の確保が出来ない状況又は当社グループがこれまで培ってきた重要な技能・技術の伝承が中断してしまう状況等が顕在化した場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(2) その他、経営成績に影響を及ぼす可能性のある事項について

固定資産の減損について

当社グループは、有形固定資産及び合併により生じたのれん等の固定資産を保有しております。当該固定資産のうち、減損の兆候が認められる資産等がある場合には、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上することとなります。このため、当該資産等が属する事業の経営環境の著しい変化や収益状況の悪化等により、固定資産の減損損失を計上する必要が生じた場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

繰延税金資産について

当社グループでは、将来減算一時差異等に対して、2026年3月期末において434百万円の繰延税金資産を計上しております。繰延税金資産は、将来の課税所得に関する予測等に基づき回収可能性を検討し計上しておりますが、実際の課税所得が予測を大幅に下回った場合等には回収可能性の見直しを行い、回収可能額まで繰延税金資産を取崩すことにより、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

また、上記の繰延税金資産は、将来の課税所得を含め様々な予測・仮定に基づいており、実際の結果はこれらの予測・仮定と異なる可能性があります。なお、実効税率等の税制関連の法令改正がなされた場合、繰延税金資産を取り崩すこと等により、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

退職給付債務について

当社グループの退職給付費用及び退職給付債務は、数理計算上の割引率及び年金資産の期待運用収益率等の前提条件に基づいて算出しております。しかしながら、運用環境の悪化等により、実際の結果がこれらの前提条件と異なった場合、あるいは前提条件の変更が必要となった場合には、退職給付費用及び退職給付債務が増加し、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

4【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当連結会計年度における当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

(1) 経営成績等の状況

当連結会計年度（2025年4月1日から2026年3月31日まで）におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善等により、緩やかな景気回復の動きがみられました。一方で、米国の通商政策における動向やウクライナ・中東地域等の不安定な国際情勢の長期化に加え、原材料価格の高止まり、物価上昇の継続等がわが国の景気を下押しする大きな懸念材料となり、先行きは依然として不透明な状況で推移しました。

当社グループの属する防災業界におきましても、原材料および資源価格の高騰等による業績への影響が懸念される状況にはありますが、防災・減災を目的とした公共事業や都市部の大規模再開発等による需要拡大への期待感は今も、継続しているように見受けられます。

このような経済状況のもと、当社グループは、自動火災報知設備から消火設備、消火器そして消防自動車までを広くカバーする総合防災企業としての立ち位置を更に強化しつつ、製品ラインナップの拡充を図り積極的な営業活動を推進してまいりました。コア・ビジネスのエンジニアリング力を活かした各種防災設備・システムの設計・施工、メンテナンスを通じて、世の中に高度な安心・安全を提供し、より良質な社会インフラを構築するという社会的使命を果たすべく、グループ一丸となって注力しております。

このような状況のもと、当社グループの当連結会計年度の売上高は60,518百万円（前年同期比4,791百万円増加）となりました。利益につきましては、営業利益7,985百万円（同1,857百万円増加）、経常利益8,232百万円（同2,415百万円増加）、親会社株主に帰属する当期純利益5,083百万円（同1,125百万円増加）となりました。

当社グループは、各種防災設備の設計・施工・保守点検、消火器及び消火設備、消防自動車、自動火災報知設備の製造・販売、防災関連用品の仕入・販売等、幅広く防災にかかわる事業を行っており、単一セグメントであるため、業績については営業種目別に記載しております。

営業種目別の業績は、次のとおりであります。

防災設備事業

当連結会計年度は、大型案件の工事進捗が進んだこと等により、売上高は36,797百万円（前年同期比3,370百万円増加）となりました。売上総利益につきましては、採算性の良い工事案件を受注出来ていること等により、10,486百万円（同1,695百万円増加）となりました。

メンテナンス事業

当連結会計年度は、改修・補修工事案件の進捗等により、売上高は10,105百万円（同55百万円減少）となりました。売上総利益につきましては、4,143百万円（同293百万円増加）となりました。

商品事業

当連結会計年度は、機器類の販売および小型工事案件の引き合いが好調だったこと等により、売上高13,616百万円（同1,476百万円増加）となりました。売上総利益につきましては、2,654百万円（同480百万円増加）となりました。

a. 生産実績

当連結会計年度の生産実績を営業種目別に示すと、次のとおりであります。

営業種目	当連結会計年度 (自2025年4月1日 至2026年3月31日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
防災設備事業	26,311,197	106.8%
メンテナンス事業	5,961,465	94.5%
商品事業	10,961,914	110.0%
合計	43,234,577	105.7%

(注) 金額は、売上原価により算出しております。

b. 受注実績

当連結会計年度の受注状況を営業種目別に示すと、次のとおりであります。

営業種目	当連結会計年度 (自2025年4月1日 至2026年3月31日)			
	受注高 (千円)	前年同期比 (%)	受注残高 (千円)	前年同期比 (%)
防災設備事業	27,803,976	88.7%	25,047,410	97.0%

(注) 1. 金額は、販売価格によって表示されております。

2. メンテナンス事業は受注と販売がほぼ同時期に成立するため、また、商品事業は見込み生産を行っているため、受注状況を記載しておりません。

c. 販売実績

当連結会計年度の販売実績を営業種目別に示すと、次のとおりであります。

営業種目	当連結会計年度 (自2025年4月1日 至2026年3月31日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
防災設備事業	36,797,342	110.1%
メンテナンス事業	10,105,091	99.5%
商品事業	13,616,329	112.2%
合計	60,518,763	108.6%

(注) 金額は、販売価格によって表示されております。

(2) 財政状態

当連結会計年度末の資産合計は、57,023百万円（前連結会計年度末比6,084百万円増加）となりました。

流動資産は、39,420百万円（同4,648百万円増加）となりました。現金及び預金10,656百万円（同1,121百万円増加）、受取手形、売掛金及び契約資産14,915百万円（同1,492百万円増加）、電子記録債権3,557百万円（同461百万円増加）、商品及び製品4,057百万円（同447百万円増加）等であります。

固定資産は、17,603百万円（同1,435百万円増加）となりました。内容は、有形固定資産9,552百万円（同5百万円減少）、無形固定資産431百万円（同153百万円減少）、投資その他の資産7,619百万円（同1,594百万円増加）であります。

負債合計は、20,667百万円（同245百万円増加）となりました。

流動負債は、17,146百万円（同40百万円増加）となりました。主な内容は、支払手形、買掛金及び工事未払金5,179百万円（同229百万円減少）、電子記録債務991百万円（同1,343百万円減少）、未払法人税等2,127百万円（同1,460百万円増加）、賞与引当金1,899百万円（同436百万円増加）等であります。

固定負債は、3,520百万円（同204百万円増加）となりました。主な内容は、社債397百万円（同397百万円増加）、長期借入金1,020百万円（同731百万円減少）、退職給付に係る負債1,584百万円（同504百万円増加）等であります。

純資産合計は、36,356百万円（同5,839百万円増加）となりました。主な内容は、配当金の支払603百万円及び親会社株主に帰属する当期純利益5,083百万円を計上したことによる利益剰余金が26,327百万円（同4,480百万円増加）、非支配株主持分5,297百万円（同414百万円増加）等であります。

これらの結果、当連結会計年度末における自己資本比率は54.5%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物の残高は、10,596百万円となり、前連結会計年度末から1,094百万円増加しました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

営業活動におけるキャッシュ・フローは、3,416百万円の収入（前連結会計年度は8,942百万円の収入）となりました。主な収入は、税金等調整前当期純利益7,741百万円、減価償却費734百万円等であり、主な支出は、売上債権の増加1,923百万円、仕入債務の減少1,597百万円、法人税等の支払額1,366百万円等であります。

投資活動におけるキャッシュ・フローは、696百万円の支出（同1,019百万円の支出）となりました。主な収入は、有形固定資産の売却による収入11百万円等であり、主な支出は、有形固定資産の取得による支出614百万円等であります。

財務活動におけるキャッシュ・フローは、1,663百万円の支出（同3,361百万円の支出）となりました。収入は、長期借入れによる収入1,000百万円等であり、主な支出は、長期借入金の返済による支出957百万円、社債の償還による支出額1,432百万円、配当金の支払額603百万円等であります。

(4) 資本の財源及び資金の流動性に係る情報

当社グループの主な資金需要につきまして、営業活動、生産活動及び研究開発活動のために必要な運転資金は、営業活動によるキャッシュ・フローによって獲得した内部資金及び金融機関からの短期借入金でまかなっております。持続的成長の実現に向けた大型の設備投資資金やアライアンスのための必要資金は、主に金融機関からの長期借入金にて調達しております。

また、資金の流動性につきましては、運転資金及び一定の戦略的投資に備えられる現金及び現金同等物等の流動性資産を確保しております。

(5) 重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社グループの連結財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたって用いた会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定のうち、重要なものについては、「第5 経理の状況、1 連結財務諸表等、(1)連結財務諸表 注記事項（重要な会計上の見積り）」に記載のとおりであります。

5 【重要な契約等】

該当事項はありません。

6【研究開発活動】

当社グループは、各種防災設備の設計・施工・保守点検、消火器及び消防自動車の製造・販売、防災用品の仕入・販売等の防災事業を行っており、単一セグメントであるため、研究開発活動について営業種目別に記載していません。

当社グループでは、消防法等関連法規の改正、社会構造の変化、市場の要請、技術環境の変化等に適応できる新技術を研究開発し、また基盤保有技術を深耕することを目的として研究開発活動を行っております。消火設備・自動火災報知設備・消火器等の機器は、消防法等関連法規により主要な仕様・規格あるいは性能・機能が定められておりますが、当社グループでは、それらの要請を効率的に実現するとともに、当社グループ独自の技術・ノウハウを盛り込むことにより、差別化を図っております。

また、近年の地球環境保護への考えの広がり、資源のリサイクル活用、建築・構造物の大規模化、複合化や新しい使用形態の施設の普及、バイオ燃料や燃料電池、水素・アンモニアをはじめとする代替エネルギーや新素材の開発等による化学物質の多様化、少子高齢化に伴う省力化等の社会環境変化により、防災製品・防災システムの機能・性能並びに物性や使用材料に対する進化が要求されております。

このような社会環境変化による市場潮流を先取りした商品の拡充・技術開発が不可欠であることから、当社グループでは、法規制にとどまらない防災製品・防災システムの開発等にも積極的に取り組み、これらのビジネスチャンスを捉えるべく、積極的な研究開発活動を推進しております。

さらに、既存技術・製品においても生産技術の改善や品質及び生産性の向上に努め、競争力強化を図ることが重要で、営業部門と開発部門との緊密な連携にも注力しております。

当連結会計年度における主な研究開発活動を営業種目別に示すと、以下のとおりであります。

(1) 防災設備事業

次世代の防災製品・防災システムの開発を進めており、ガス系消火設備について、施工効率向上等を目的とした制御盤をリニューアルし、日本消防設備安全センターが行う認定型式を取得しました。量産準備と並行して、防火区画用ガス系埋込型操作箱などのオプション機器の開発を進めております。

PFOS、PFOA、PFHxS、PFHxAなどの直鎖系有機ふっ素化合物を含まない、危険物施設向けの泡消火薬剤については商品名「グリーンアルコエース」として販売開始しておりますが、その発展形として泡原液を二分の一に濃縮した製品を開発し、国家検定型式を取得しました。さらに、消火難易度が高いアルコール類の火災に威力を発揮する高性能タイプの製品を開発し、国家検定型式を取得しました。

新たな自動火災報知設備・機器の開発に加えて、火災判定アルゴリズムの基礎研究を始め、次世代の火災予兆検知に関するセンシング技術を中心とした研究開発に引き続き取り組んでおります。

(2) 商品事業

地球環境にやさしい消火薬剤等の開発を進めており、有機ふっ素化合物を一切含んでいない中性強化液消火薬剤を開発し、当該薬剤を充填した消火器の国家検定型式を取得しました。

産業用機械向けの自動消火装置については、既に販売開始しておりますが、オプションとして装置本体の格納箱や一部機能を追加する等、ユーザーの様々なニーズに応えるため、ラインナップの拡充を図りました。

なお、当連結会計年度の研究開発費の総額は、629百万円であります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループは、各種防災設備の設計・施工・保守点検、消火器及び消防自動車の製造・販売、防災用品の仕入・販売等の防災事業を行っており単一セグメントであるため、設備投資の状況について営業種目別に記載しております。

当連結会計年度に実施しました設備投資の総額は655百万円で、営業種目別の主な内容は次のとおりであります。

防災設備事業においては、機械装置および設備の拡充に207百万円の設備投資を実施しております。

商品事業においては、機械装置に40百万円、消火薬剤充填設備に140百万円、金型の更新に19百万円の設備投資を実施しております。

その他共通の設備投資は、研究開発投資に24百万円、技術開発第2研究所の建設費用に118百万円、システム投資に21百万円の設備投資を実施しております。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

2026年3月31日現在

事業所名 (所在地)	営業種目別の 名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)	
			建物及び 構築物 (千円)	機械装置及 び運搬具 (千円)	工具、器具 及び備品 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	その他 (千円)		合計 (千円)
千葉工場 (千葉県山武市)	防災設備、商 品	生産設備 研究施設	840,459	387,347	41,954	422,775 (43,204.27)	6,923	1,699,460	115 (15)
福島工場 (福島県福島市)	防災設備	生産設備 研究施設	1,393,685	27,176	79,327	358,697 (33,840.66)	27,877	1,886,764	98 (13)
本社 (東京都北区)	全営業種目 会社統括業務	販売設備 統括施設	23,979	-	23,858	-	1,406	49,245	327 (58)
大阪支店 (大阪府大阪市 淀川区)	全営業種目	販売設備	4,722	-	685	-	-	5,407	64 (5)
名古屋支店 (愛知県名古屋 市中区)	全営業種目	販売設備	2,771	-	0	-	-	2,771	56 (3)

- (注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、リース資産、建設仮勘定及び無形固定資産であります。
 2. 現在休止中の主要な設備はありません。
 3. 従業員は就業人員であり、臨時雇用者数は年間の平均人員を()外数で記載しております。
 4. 上記の他、主要な賃借している設備として、以下のものがあります。

事業所名 (所在地)	営業種目別の名称	設備の内容	従業員数 (人)	面積 (㎡)	年間賃借料 (千円)
本社 (東京都北区)	全営業種目 会社統括業務	販売設備及び 統括施設	327 (58)	2,283.22	132,190

(2) 国内子会社

2026年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	営業種目別 の名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
				建物及び 構築物 (千円)	機械装置 及び運搬具 (千円)	リース資産 (千円)	その他 (千円)	合計 (千円)	
北海道ドライケミ カル㈱	本社 (北海道札幌 市白石区)	全営業種目	統括業務施設	21,160	-	1,333	14,362	36,856	79 (4)

- (注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品、一括償却資産及び無形固定資産であります。
 2. 現在休止中の主要な設備はありません。
 3. 従業員は就業人員であり、臨時雇用者数は年間の平均人員を()外数で記載しております。
 4. 当社は、2025年10月1日付で、日本ドライメンテナンス㈱を吸収合併いたしました。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、景気予測、業界動向及び投資効率等を総合的に勘案して策定しております。なお、当連結会計年度末現在における、重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	14,000,000
計	14,000,000

(注) 2026年2月20日開催の取締役会決議により、2026年4月1日付で株式分割に伴う定款の変更が行われ、発行可能株式総数は42,000,000株増加し、56,000,000株となっております。

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2026年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2026年6月30日)	上場金融商品取引所名又は登録認 可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	7,181,812	28,727,248	東京証券取引所 スタンダード市場	権利内容に何ら限 定のない当社にお ける標準となる株 式であり、単元株 式数は100株であ ります。
計	7,181,812	28,727,248	-	-

(注) 2026年2月20日開催の取締役会決議により、2026年4月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。これにより、発行済株式総数は21,545,436株増加し、28,727,248株となっております。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2018年10月1日 (注)1	3,590,906	7,181,812	-	700,549	-	700,549

(注) 1. 株式分割(1:2)によるものであります。

2. 2026年4月1日付で、普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行い、発行済株式総数が21,545,436株増加しております。

(5) 【所有者別状況】

2026年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	7	17	132	74	11	3,160	3,401	-
所有株式数(単元)	-	7,989	1,247	28,894	14,363	15	19,240	71,748	7,012
所有株式数の割合(%)	-	11.13	1.74	40.27	20.02	0.02	26.82	100.00	-

(注) 自己株式478,136株は、「個人その他」に4,781単元及び「単元未満株式の状況」に36株を含めて記載しております。

(6) 【大株主の状況】

2026年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
A L S O K 株式会社	東京都港区元赤坂1丁目6番6号	1,100,000	16.41
日本ドライケミカル取引先持株会	東京都北区田端6丁目1番1号	424,900	6.33
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番12号	423,500	6.31
株式会社初田製作所	大阪府枚方市招提田近3丁目5	340,000	5.07
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区赤坂1丁目8番1号	258,100	3.85
GOVERNMENT OF NORWAY (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店)	BANKPLASSEN 2, 0107 OSLO 1 OSLO 0107 NO (東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	236,800	3.53
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC) (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	PETERBOROUGH COURT 133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB UNITED KINGDOM (東京都千代田区丸の内1丁目4番5号)	222,758	3.32
BNP PARIBAS LUXEMBOURG/2S/JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	33 RUE DE GASPERICH, L-5826 HOWALD-HESPERANGE, LUXEMBOURG (東京都中央区日本橋3丁目11番1号)	205,800	3.06
新日本空調株式会社	東京都中央区日本橋浜町2丁目31番1号	192,000	2.86
日本ドライケミカル従業員持株会	東京都北区田端6丁目1番1号	121,800	1.81
計	-	3,525,658	52.59

(注) 1. 上記株式会社日本カストディ銀行の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、398,300株、日本マスタートラスト信託銀行株式会社の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、154,900株であります。

2. 総合警備保障株式会社は、2025年7月16日付でA L S O K 株式会社に商号変更しております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2026年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 478,100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,696,700	66,967	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 7,012	-	-
発行済株式総数	7,181,812	-	-
総株主の議決権	-	66,967	-

【自己株式等】

2026年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
日本ドライケミカル株式会社	東京都北区田端6丁目1番1号	478,100	-	478,100	6.65
計	-	478,100	-	478,100	6.65

(8) 【役員・従業員株式所有制度の内容】

(取締役に対する譲渡制限付株式報酬制度)

当社は、2025年6月26日開催の第73回定時株主総会の決議に基づき、取締役(社外取締役を除く)を対象に、譲渡制限付株式報酬制度を導入しております。制度の詳細につきましては、「4 コーポレート・ガバナンスの状況等 (4) 役員の報酬等」をご参照ください。

(従業員に対する株式所有制度)

従業員株式所有制度の概要

当社は、当社および当社子会社等の従業員が自社株式を定期的に取得・保有し、中長期的な財産形成の一助となるよう福利厚生を目的として、従業員持株会制度を導入しております。

従業員持株会に取得させる予定の株式の総数
特段の定めは設けておりません。

従業員株式所有制度による受益権その他の権利を受けることができる者の範囲
当社および当社子会社等の従業員に限定しております。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	100	640,970
当期間における取得自己株式	-	-

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、株式交付、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(譲渡制限付株式報酬による自己株式の処分)	2,708	7,265,564	-	-
保有自己株式数	478,136	-	478,136	-

(注) 当事業年度における「その他(譲渡制限付株式報酬による自己株式の処分)」は、2025年6月26日に開催した定時株主総会決議に基づき実施した、譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分であります。

3【配当政策】

当社は、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題の一つと認識しており、持続的な成長に向けて、将来への事業投資や経営環境の変化に備えた事業推進をするとともに、経営基盤の強化を図りつつ、安定した株主配当を継続して実施することを配当政策の基本方針としております。

また、当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であり、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

当事業年度の配当につきましては、上記方針に基づき1株当たり90円00銭の配当(うち中間配当35円00銭)を実施することを決定いたしました。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
2025年11月11日 取締役会決議	234,629	35.00
2026年6月26日 定時株主総会決議	368,702	55.00

(注) 当社は2026年4月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。

当事業年度に係る配当金につきましては、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

企業統治に関するその他の事項

当社は会社法及び会社法施行規則に基づき、以下のとおり当社の業務の適正を確保するための体制を整備しております。

- (1) 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 - 1) 当社を含む当社グループの役員及び使用人は会社が定めた倫理行動規範により行動しております。
 - 2) 取締役は、他の取締役の法令又は定款に違反する行為を発見した場合、直ちに監査役会及び取締役会に報告することとしております。
 - 3) 取締役会の事務局を設置し、毎月1回の定時取締役会のほか、必要に応じて取締役会を招集し、取締役会規則の定める付議事項が適時に上程・審議される体制とし、議案については十分な審議を可能とする取締役会資料の作成支援、議案内容の事前説明を行うことにより、取締役及び監査役の議案の理解を促し、適法性その他の確認が適切になされることを確保しております。
 - 4) 当社は、代表取締役社長を委員長とし、全取締役が委員として参画する内部統制委員会を四半期に1回以上開催し、不正・不都合の防止、法令遵守のための施策の策定を行うとともに、その実施状況を確認しております。
 - 5) 当社グループのコンプライアンスに係る内部通報窓口を定め、取締役の法令違反につき通報できる体制をとり、コンプライアンス体制の機能状況をモニタリングしております。
- (2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
取締役の職務の執行に係わる重要な会議等の議事録及び関連資料は適切に保存・管理しております。
- (3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
リスク管理に関する規程等を定め、全社のリスクを総括的に管理する体制を整えております。
当社は、代表取締役社長を委員長とし、全取締役が委員として参画するリスク管理委員会を設置し、リスク発生の都度又は今後リスクとなる可能性のある事象を発見した場合は速やかに開催し、リスク案件の原因の特定、改善策の提案、実施など早期解決を図っております。
又、定例のリスク管理委員会を四半期に1回開催し、サステナビリティに関する課題を含めたリスク案件に関する協議・検討、新たなリスク要因への対応協議を行っております。
- (4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
当社は、組織規程・業務分掌規程・職務権限規程をはじめ各種規程を整備し、各役職者の権限と責任を明確にし、適正かつ効率的な職務の執行が行われる体制を構築しております。
- (5) 使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
当社は、内部監査室を置き、業務全般に関し、法令・定款・社内規程等の遵守状況、職務の執行の続き及び内容の妥当性につき、定期的に内部監査を実施しております。
- (6) 子会社の取締役等の職務の執行に係る事項の会社への報告に関する体制
子会社においては、定例の取締役会が四半期に1回以上開催され、取締役の業務執行報告がなされます。その報告内容が関係会社管理規程に基づき、当社管理本部長に報告され、その報告事項について、当社取締役会に報告されるものとしております。
- (7) 子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制
当社が定めたリスク管理に関する規程に基づき、グループ各社でリスクを管理する体制を整えております。
- (8) 子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
子会社においても、組織規程・業務分掌規程・職務権限規程をはじめ各種規程を整備し、各役職者の権限と責任を明確にし、適正かつ効率的な職務の執行が行われる体制を構築しております。
- (9) 子会社の取締役等及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
当社内部監査室がグループ会社の業務全般に関し、法令・定款・社内規程等の遵守状況、職務の執行の続き及び内容の妥当性につき、定期的に内部監査を実施しております。

- (10) 当社並びにその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
グループ会社の経営については関係会社管理規程に基づき、管理は当社管理本部が行っております。子会社は管理本部長に対し、定期的に業務の報告を行い、重要案件については当社取締役会の承認を得るものとしております。又、必要に応じて子会社の取締役又は監査役は、当社の取締役又は使用人が兼任するものとしております。取締役は子会社の業務執行状況を監督し、監査役は子会社取締役の職務執行を監査しております。又、当社の監査役及び内部監査室は、子会社の監査役等と連携し、子会社の取締役及び使用人の職務執行状況の監査や指導を行うものとしております。
- (11) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項
監査役からその職務を補助すべき使用人を置くことの要請があれば、速やかに対応することとしております。
- (12) 前号の使用人の当該監査役設置会社の取締役からの独立性に関する事項
監査役を補助する使用人に対する指揮命令権限は、その監査業務を補助する範囲内において監査役又は監査役会に帰属するものとし、又、当該使用人の人事異動・人事評価等については、事前に監査役会の同意を必要とするものとしております。
- (13) 監査役の第11号の使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項
監査役を補助する使用人を置く場合は、原則として専属の使用人とし、取締役の指示、命令を受けないものとしております。但し止むを得ない場合は業務執行との兼務も可とするが、前号の独立性に配慮するものとしております。
- (14) 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制
監査役は取締役会のほか経営委員会その他重要な会議に出席し取締役等からその職務の執行状況を聴取し、関係資料を閲覧することが出来るものとしております。更に取締役は監査役に対して、重要な会議の審議事項、内部監査の結果報告、財務の状況等所定の業務執行に関する重要事項の報告を行うものとしております。
- (15) 子会社の取締役、監査役及び使用人又はこれらの者から報告を受けた者が当該監査役設置会社の監査役に報告するための体制
グループ会社の取締役、監査役及び使用人又はこれらの者から報告を受けた者は、内部通報規程に基づき、当社総務人事部長に報告するとともに、遅滞なく監査役に報告するものとしております。
- (16) 前号の報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制
報告者は、当該報告をしたことにより、不利益を受けることのないものとしております。万一不利益な取扱いをした場合は、当社内部通報規程に基づき、罰則の対象としております。
- (17) 監査役職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項
監査役からの求めに応じ、社内規程に基づき、監査役職務の執行について生じる費用の負担を行うものとしております。
- (18) その他監査役職務の執行が実効的に行われることを確保するための体制
監査役は、会計監査人及び内部監査室と情報交換に努め、連携して監査の実効性を確保するものとしております。

取締役の定数

当社の取締役は、15名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任の決議は議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数を以て行う旨及び選任の決議は、累積投票によらない旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、定足数を緩和することにより株主総会の円滑な運営を行うため、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上を以て行う旨定款に定めております。

自己の株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって、自己の株式を取得することが出来る旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、市場取引等により自己の株式を取得することを目的とするものであります。

中間配当の決定機関

当社は、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を可能にするためであります。

取締役及び監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって同法第423条第1項の行為に関する取締役（取締役であった者を含む。）及び監査役（監査役であった者を含む。）の責任を、法令の限度において免除することができる旨定款に定めております。これは、取締役及び監査役が職務を遂行するにあたり、期待される役割を十分に発揮することが出来るよう、また社内外を問わず広く適任者を得られることを目的とするものであります。

責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第1項の規定により、社外取締役及び社外監査役との間に、その会社法第423条第1項の責任を法令が規定する額まで限定する契約を締結することができる旨を定款で定めております。

役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、株主や第三者等から損害賠償請求を提起された場合において、被保険者が負担することになる損害賠償金、訴訟費用等の損害を当該保険契約により補填することとしております。当該保険契約の被保険者は、当社及び子会社の取締役、監査役及び執行役員等の主要な業務執行者であり、当該保険料の全額を当社が負担しております。

取締役会の活動状況

当事業年度において、当社は取締役会を22回開催しており、個々の取締役及び監査役の出席状況については次のとおりであります。

氏名	開催回数	出席回数
亀井正文	22回	22回
浅田裕冲	22回	22回
松岡猛	22回	22回
柄澤秀樹	22回	22回
山内良介	4回	4回
平林学	13回	13回
南波幸雄	22回	22回
清威人	22回	22回
大橋徹	22回	22回
渡慶次憲彦	22回	21回
紀陸保史	22回	22回

取締役会における具体的な検討内容として、当事業年度では、四半期・年次決算及び予算の承認、剰余金の配当、株主優待制度の決定、従業員の昇給・賞与の決定、借入金の実施、組織改革及び部長等人事に関する議案等、合計58件を決議いたしました。

また、月次決算報告、各取締役・監査役からの四半期報告、コーポレート・ガバナンス報告書についてサステナビリティ関連の検討事項を含めた事前審議等、合計41件の報告事項について、役員間において、十分に議論しております。

決議事項、報告事項のいずれにおいても、独立社外取締役から担当取締役に対して詳細な説明が求められ、意見交換をいたしました。

当社は、取締役会の開催頻度、役員の出席率の高さ、また実際の議論の内容等から、取締役会による経営意思決定及び取締役の職務執行の監督が適切に行われており、コーポレート・ガバナンスの観点から有効に機能していると評価しております。また、当社社外役員による常勤取締役へのヒアリングが行われ、取締役会の実効性に関し、評価を行っております。

当社は、経営委員会において、取締役会の議案について事前の審議を行っており、取締役会での議論のさらなる充実化に努めております。

また、社外役員に対しても、事前に社外役員連絡会において、取締役会の議題を詳細に説明することで、その後の取締役会の実効性の向上に努めております。同時に取締役会は、経営上の重要な意思決定を行い、執行役員の業務執行の状況について監督することで、コーポレート・ガバナンスの強化に取り組んでおります。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

2026年6月30日(有価証券報告書提出日)現在の当社の役員の状況は、以下のとおりです。

男性 9名 女性 1名 (役員のうち女性の比率 10%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
代表取締役社長	亀井 正文	1957年10月25日生	1981年4月 藤和不動産株式会社(現 三菱地所レジデンス株式会社) 入社 1985年9月 ソニーケミカル株式会社(現 デクセリアルズ株式会社) 入社 2005年1月 株式会社パワードコム(現 KDDI 株式会社)入社 2010年7月 当社入社 2010年10月 当社経理財務部長 2014年6月 当社経理財務部長兼情報システム部長 2015年6月 当社執行役員管理部門担当経理財務部長兼情報システム部長 2016年7月 当社執行役員管理本部長兼経理財務部長兼情報システム部長 2017年5月 当社執行役員管理本部長兼経理財務部長 2017年6月 当社取締役管理本部長兼経理財務部長 2017年11月 株式会社始興金属(現 M-tech株式会社) 監事 2020年4月 当社取締役管理本部長兼経理部長兼財務部長 2022年4月 当社取締役管理本部長兼企画・IR部長 2023年6月 当社常務取締役管理本部長兼企画・IR部長兼内部監査・品質保証担当 2024年3月 当社代表取締役社長(現任) 2024年3月 M-tech株式会社代表理事(現任) 2024年4月 株式会社イナートガスセンター代表取締役社長(現任)	(注)3	32,160
取締役	柄澤 秀樹	1966年12月3日生	1990年4月 山一證券株式会社入社 1993年1月 当社入社 2015年4月 当社設備東京支店プラント防災営業部長 2021年7月 当社執行役員営業本部プラント統括部長 2022年4月 当社執行役員プラント防災事業本部長 2024年5月 当社執行役員事業統括本部副本部長 営業企画管掌 2024年6月 当社取締役事業統括本部副本部長 営業企画管掌 2025年5月 広伸プラント工業株式会社代表取締役(現任) 2025年6月 当社取締役事業統括本部副本部長 営業企画、機器・メンテナンス事業管掌 2026年6月 当社取締役事業統括本部副本部長 機器・プラント事業、技術、事業管理管掌(現任)	(注)3	16,080
取締役	粕谷 知久	1968年9月11日生	1993年4月 当社入社 2015年4月 当社設備東京支店建築防災営業部長 2018年4月 当社営業本部消装東京支店長 2021年7月 当社執行役員営業本部消装東京支店長 2022年4月 当社執行役員建築防災事業本部長 2022年6月 株式会社イナートガスセンター取締役(現任) 2024年6月 当社執行役員事業統括本部建築防災事業部長 2026年5月 北海道ドライケミカル株式会社代表取締役(現任) 広伸プラント工業株式会社取締役(現任) 2026年6月 当社取締役事業統括本部長 建築防災事業部長 建築防災・メンテナンス事業管掌(現任)	(注)3	4,000

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
-----	----	------	----	----	----------

取締役	松尾 登志紀	1968年6月1日生	1993年4月 当社入社 2012年6月 当社営業本部戦略事業企画推進室長 2013年5月 当社社長室長 2013年5月 株式会社初田製作所取締役 2015年6月 株式会社ヒューセック取締役営業本部長 2016年7月 当社法人営業本部法人営業部長 2017年4月 当社名古屋支店長 2021年7月 当社営業本部営業企画部長 2024年7月 当社執行役員メンテナンス事業部長 2025年4月 当社執行役員管理本部長 2026年6月 当社取締役管理本部長 管理・製造部門管掌（現任）	(注)3	-
取締役	平林 学	1976年11月11日生	1999年3月 総合警備保障株式会社（現 ALSOK株式会社）入社 2019年6月 ALSOK - TW東日本株式会社取締役 2022年4月 ALSOK株式会社大阪南支社長 2025年4月 同社大阪支社営業副部門長 2025年6月 当社取締役事業統括本部副本部長 営業開発部長 営業開発管掌（現任）	(注)3	-
取締役	清 威人	1963年7月27日生	1987年4月 トヨタ自動車株式会社入社 1989年2月 アーサー・アンダーセン（現 アクセンチュア）入社 1999年4月 コムテック株式会社入社 同社取締役 2001年10月 エイムネクスト株式会社を設立 同社代表取締役社長（現任） 2012年4月 KIT虎ノ門大学院客員教授 2023年4月 宮崎大学非常勤講師（現任） 2023年4月 電気通信大学非常勤講師 2024年6月 当社取締役（現任）	(注)3	-
取締役	金 太浩	1963年2月22日生	1985年7月 アメリカン・エクスプレス・インターナショナル, Inc.入社 1998年11月 シンワ株式会社グループ戦略室長 2000年4月 同社本社取締役、北米関連子会社社長 2002年11月 株式会社ミスミ（現 株式会社ミスミグループ本社）経営企画室長 2003年6月 同社執行役員ツール事業部長 2007年10月 同社常務執行役員金型・工具企業体社長 2008年6月 同社取締役常務執行役員 2009年11月 株式会社ディーアンドエムホールディングス執行役員アジア・パシフィックリージョンプレジデント 2013年6月 日本インター株式会社代表取締役社長 2016年8月 京セラ株式会社経営戦略部長 2017年6月 株式会社アーク代表取締役社長 2022年6月 エンワールド・ジャパン株式会社代表取締役社長 2026年6月 当社取締役（現任）	(注)3	-

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
監査役(常勤)	中川 信夫	1963年3月1日生	1985年4月 柴野化学産業株式会社入社 1988年8月 当社入社 2007年4月 当社名古屋支店防災設備部長 2012年10月 当社大阪支店長 2021年7月 当社執行役員営業本部中・西日本防災設備統括兼大阪支店長兼メンテナンス営業部長兼沖縄営業所長 2022年4月 当社執行役員火報・商品事業本部長兼業務管理部長 2023年6月 当社内部監査室長 2024年4月 当社名古屋支店長兼火報・機器営業部長 2024年7月 当社執行役員名古屋支店長 2026年5月 北海道ドライケミカル株式会社監査役(現任) 広伸プラント工業株式会社監査役(現任) 2026年6月 当社監査役(現任) 株式会社イナートガスセンター監査役(現任)	(注)4	10,400
監査役	渡慶次 憲彦	1969年6月15日生	1995年2月 米国の Hotta Liesenberg Saito LLP 入所 2001年4月 株式会社HLSグローバル代表取締役(現任) 2006年1月 米国の Hotta Liesenberg Saito LLP のパートナーに就任(現任) 2014年6月 当社監査役(現任) 2023年6月 株式会社ゲームカード・ジョイコホールディングス(現 株式会社ゲームカードホールディングス)社外監査役(現任)	(注)4	-
監査役	森 悦子	1956年6月16日生	1986年4月 東京地方検察庁検事 2010年7月 静岡地方検察庁次席検事 2011年11月 最高検察庁検事 2012年4月 さいたま地方検察庁次席検事 2013年4月 東京地方検察庁立川支部長 2014年1月 福井地方検察庁検事正 2015年7月 最高検察庁検事 2016年9月 前橋地方検察庁検事正 2018年1月 検事退官 2018年2月 東京法務局所属公証人 2026年6月 当社監査役(現任)	(注)4	-
計					62,640

- (注) 1. 取締役 清 威人氏及び金 太浩氏は、社外取締役であります。
2. 監査役 渡慶次 憲彦氏及び森 悦子氏は、社外監査役であります。
3. 取締役の任期は、2026年6月26日開催の定時株主総会終結の時から2年間であります。
4. 監査役の任期は、2026年6月26日開催の定時株主総会終結の時から4年間であります。
5. 取締役会の意思決定及び業務執行の迅速化かつ経営効率の向上を図るため、執行役員制度を導入しております。執行役員は6名で、以下のとおりであります。

氏名	担当
蛭田 拓宏	事業統括本部メンテナンス事業部長
福井 章人	事業統括本部プラント防災事業部長
大木 健二	技術本部長
紀伊 通陽	事業統括本部機器事業部長
佐藤 秀和	製造本部長
阿部 晶	経営企画室長

社外役員の状況

当社は、取締役7名中2名を社外取締役とすることで経営の意思決定機能と業務執行を管理監督する機能を強化しており、社外取締役2名は、いわゆる一般株主と利益相反が生じる恐れのない独立役員に相当しております。社外取締役清 威人氏及び金 太浩氏と当社との間に、人的関係、重要な取引関係その他の利害関係はありません。

当社は、監査役3名中2名を社外監査役とすることで経営の監視機能を強化しております。また、社外監査役2名は、いわゆる一般株主と利益相反が生じる恐れのない独立役員に相当しており、一般株主保護の立場で企業統治できる体制になっております。社外監査役渡慶次 憲彦氏及び森 悦子氏と当社との間に、人的関係、重要な取引関係その他の利害関係はありません。

社外監査役は、監査結果を監査役会に報告するとともに、会計監査人から監査計画、監査結果について定期的に報告を受け、また会計監査人の監査の一部に立会い相互連携しております。更に内部監査部門との間で必要に応じて情報交換や意見交換を行っております。

コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立の経営監視機能が重要と考えており、社外監査役2名による監査が実施されることにより、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整っているため、現状の体制としております。このほか、社外取締役及び社外監査役が出席する社外役員連絡会において、取締役会の実効性を評価しております。

また、社外取締役及び社外監査役の選任における独立性に関する方針として明確に定めたものではありませんが、当社との間に人的関係、重要な取引関係その他の利害関係がない者であり、かつ一般株主と利益相反が生じる恐れのない者としております。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

当社は内部監査部門として、社長が直接管掌する組織である内部監査室(構成人員3名)を設置し、年度計画に基づき当社及び当社グループの内部監査を実施し、監査役、取締役会及び監査役会に監査結果を直接報告しております。

また監査役は、法令、定款及び監査役会が監査の実効性を確保するために制定した監査役会規則及び監査役監査計画書に従って監査を行っており、会計監査人から監査計画、監査結果について定期的に報告を受けるとともに、会計監査人の監査の一部に立会い相互連携しております。

内部監査室、監査役会及び会計監査人は、必要に応じて意見交換や情報交換を行うなど相互連携し、監査の有効性や効率性の向上に努めております。発見された不正、不都合等については、監査役会において審議の上、代表取締役社長及び取締役会に報告しております。必要のある場合は助言・勧告を行います。

(3)【監査の状況】

監査役監査の状況

各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役会その他の重要な会議に出席するほか、取締役等からその職務の執行状況を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査のうえ、取締役の職務執行状況を監査しております。

なお、社外監査役渡慶次 憲彦氏及び紀陸 保史氏は、長年にわたる経営者としての豊富な経験があり、企業経営を統治する十分な見識を有しております。

当事業年度において当社は監査役会を月1回開催しており、個々の監査役の出席状況については次のとおりであります。

氏名	開催回数	出席回数
大 橋 徹	13回	13回
渡 慶 次 憲 彦	13回	12回
紀 陸 保 史	13回	13回

監査役会において、次の事項の審議及び決議を行っております。

- ・ 監査の基本方針、監査役監査計画書
- ・ 監査役会議長、常勤監査役及び特定監査役の選定
- ・ 会計監査人の評価及び再任、監査報酬金額の妥当性及び報酬金額等の決定
- ・ 監査役会監査報告書案

この他年間を通じ、各種会議出席及び書類閲覧等による監査結果の月例報告、サステナビリティに対する方針や活動内容に関する検討状況の確認等を行っております。

また、常勤監査役の活動として、経営委員会等の重要な会議への出席、稟議書、契約書及び議事録等の重要な書類の閲覧、事業所往査等の業務を通じて取締役に対し必要な提言、助言及び勧告を行う他、会計監査人及び内部監査室との連携、監査役会の運営等を行っております。

内部監査の状況

当社は内部監査部門として、社長が直接管掌する組織である内部監査室(構成人員3名)を設置し、年度計画に基づき当社及び当社グループの内部監査を実施し、監査役、取締役会及び監査役会に監査結果を直接報告しております。また、被監査部門への監査結果通知並びに改善指示を実施し、改善状況についての調査・確認を行うことにより、内部監査の実効性を確保しております。

内部監査室、監査役会及び会計監査人の連携については、内部監査室は監査役に対し内部監査の結果等について随時報告し情報共有を図っているほか、会計監査人との間では会計監査の結果を内部監査実施の際の参考とするとともに、定期的に意見交換を行っております。また、監査役は会計監査人による監査に必要な応じて同席することに加え、都度監査に関する報告及び説明を受けるなど、三者間で相互連携を密にしております。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

PwC Japan有限責任監査法人

b. 継続監査期間

12年間

c. 業務を執行した公認会計士

指定有限責任社員 業務執行社員 平岡 伸也氏(継続監査年数 5年)

指定有限責任社員 業務執行社員 並木 俊朗氏(継続監査年数 2年)

d. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者として公認会計士4名、その他11名がおります。

監査法人の選定方針と理由

当社は、監査法人の監査品質、品質管理体制、独立性及び専門性等を総合的に勘案し、当監査法人を選任しております。

また、事業年度毎に当社の監査役会は、監査役会において策定した「会計監査人の解任・不再任の決定方針並びに評価及び選定基準(2016年1月25日改訂)」に基づき、当監査法人が次の(a)及び(b)に該当する場合は『解任』、(c)に該当する場合は『不再任』を、それぞれ具体的内容に基づき、十分に審議して決定しております。

(a)会社法 第340条第1項各号に定める項目に該当すると判断される場合

(b)会社法、公認会計士法等の法令違反による懲戒処分や監督官庁からの処分を受けた場合

(c)会計監査人の監査品質、品質管理、独立性、総合的能力等の具体的要素を列挙し、それらの観点から監査を遂行するに不十分であると判断した場合

監査役及び監査役会による監査法人の評価

当社の監査役及び監査役会は、監査役会が策定した評価基準に基づき、当監査法人の評価を行いました。その結果、当監査法人による監査が適正に行われていることを確認しております。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	54,990	-	56,000	-
連結子会社	-	-	-	-
計	54,990	-	56,000	-

b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに属する組織に対する報酬(a.を除く)

(前連結会計年度)

当社は、監査公認会計士等と同一のネットワークに属する三逸(サミル)会計法人に対して、監査証明業務に基づく報酬 8,260千円を支払っております。

(当連結会計年度)

当社は、監査公認会計士等と同一のネットワークに属する三逸(サミル)会計法人に対して、監査証明業務に基づく報酬 8,960千円を支払っております。

c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

PwC Japan有限責任監査法人から、監査業務ごとに作業時間及び作業を行うスタッフの人数とレベルに基づいた見積金額の提示を受け、双方で内容を確認し妥当であることを確認した上で、監査報酬を決定しております。

e. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

取締役会が提案した会計監査人に対する報酬等に対して、当社の監査役会が会社法第399条第1項の同意をした理由は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠等が適切であることが確認出来たためであります。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社の取締役の報酬等については、株主総会の決議により、取締役全員の報酬等の限度額を決定しております。

各取締役の報酬等は、基本報酬、賞与、譲渡制限付株式報酬より構成されております(社外取締役は業務執行から独立した立場であることから、固定の基本報酬のみとしております。)

基本報酬は、個々の取締役の職責及び実績等の要素を基準に勘案して支給しております。

賞与は、報酬等限度額の範囲内で、当該年度の全社業績、個人業績等を勘案し、決定しております。

監査役の報酬等は、業務執行から独立した立場であることから、固定の基本報酬のみとしております。各監査役の報酬等については、株主総会で決議された報酬等限度額の範囲内で、個々の監査役の職責に応じ、監査役の協議により決定しております。

役員の報酬等に関する株主総会の決議内容

役員の報酬等の限度額は次のとおりであります。

取締役 年額150,000千円以内。ただし、使用人分給与は含まない。(2009年6月30日開催の第57回定時株主総会)

監査役 年額30,000千円以内。(2008年6月30日開催の第56回定時株主総会)

役員の報酬額又はその算定方法の決定に関する方針の決定権限を有する者

取締役の報酬等に係る方針は、取締役会において決定しております。各取締役の報酬等は、基本報酬、賞与、譲渡制限付株式報酬より構成されております（社外取締役は業務執行から独立した立場であることから、固定の基本報酬のみとしております。）。各取締役の報酬については、株主総会で決議された報酬等限度額の範囲内で、取締役会により決定権限の一切を再一任された代表取締役社長亀井正文が、個々の取締役の職責および業績の目標達成等を勘案の上、当社の定める一定の基準に基づき検討および審議し、決定しております。これらの権限を委任した理由は、当社全体の業績を俯瞰しつつ各取締役の担当事業等の評価を行うには代表取締役社長が最も適しているからであります。従いまして、取締役の個人別の報酬等の内容は上記の方針に沿うものと判断しております。

譲渡制限付株式報酬については、金銭報酬枠とは別枠にて、株主総会の決議により定められた最高限度額の範囲内で、各取締役（社外取締役を除く）へ支給することとしております。なお、当該株式報酬は、譲渡制限付株式割当契約を締結することを条件としております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる役員の員数(人)
		基本報酬	賞与	譲渡制限付 株式報酬	
取締役 (社外取締役を除く)	114,267	60,205	40,251	13,810	6
監査役 (社外監査役を除く)	10,500	10,500	-	-	1
社外役員	11,004	11,004	-	-	4

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、専ら株式の価値の変動又は株式に係る配当によって利益を受けることを目的とする投資株式を、純投資目的である投資株式として区分し、それ以外の投資株式については、純投資目的以外の目的である投資株式としております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

持続的な企業価値の向上と資本業務提携先との取引関係の維持、強化のため、原則として株式を保有していく方針であります。この方針のもと、個々の政策保有株式の継続保有の有無については、保有目的が継続されているか、また経済合理性を精査し、取締役会において適宜検証、見直しを行っております。

b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	5	98,015
非上場株式以外の株式	6	2,833,948

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

該当事項はありません。

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

該当事項はありません。

c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)		
新日本空調(株)	684,000	684,000	空調設備と消火設備の関連事業における協業等を目的とした資本業務提携契約を締結しており、良好な関係維持のため保有しております。	有
	2,229,840	1,194,264		
沖電気工業(株)	90,000	90,000	主として防災通信分野における共同研究開発を実施しており、良好な関係維持のため保有しております。	有
	231,570	88,560		
A L S O K(株) (注) 2 .	175,000	175,000	営業協力体制の構築及び両社のシナジーによる市場シェア拡大等を目的とした資本業務提携契約を締結しており、良好な関係維持のため保有しております。	有
	218,750	196,350		
櫻護謨(株)	34,600	34,600	主として仕入の取引関係があり、良好な関係維持のため保有しております。	有
	105,357	65,601		
(株)第一ライフグループ (注) 3 .	19,600	4,900	保険取引等を行っており、取引の円滑化を図るため保有しております。株式数が増加した理由は株式分割によるものです。	無
	27,851	22,206		
デンヨー(株)	6,000	6,000	主として販売の取引関係があり、良好な関係維持のため保有しております。	有
	20,580	14,640		

(注) 1 . 特定投資株式のうちいずれの銘柄についても、定量的な保有効果については記載が困難であります。

保有の合理性については、上記「a . 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容」に記載のとおりの方法により検証しております。

2 . A L S O K(株)は、2025年7月16日付で、総合警備保障(株)からA L S O K(株)に商号変更しております。

3 . (株)第一ライフグループは、2026年4月1日付で、第一生命ホールディングス(株)から(株)第一ライフグループに社名を変更しています。

みなし保有株式

該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

5【従業員の状況等】

(1)【人材戦略に関する基本方針等】

(1) 企業戦略と関連付けた人材戦略

当社は、「第2 事業の状況、1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等、(3) 中長期的な会社の経営戦略」に記載のとおり、持続的な成長を実現するための経営基盤の強化および高付加価値・成長領域への事業拡大を中期経営方針としております。法令に基づく領域で拡大してきた現在の事業ドメインを維持・強化しつつ、社会要請に基づく特殊物件の防災をコア領域として更なる注力を図ることで、先端防災分野をリードし、火災予防でもエキスパートとなることを中期経営計画の柱としております。

中期経営計画のなかでも「人財育成と社員の挑戦を促す組織づくり」をマテリアリティの1つに掲げており、人財育成方針のブラッシュアップ、キャリアパスの見直しおよびスキルマップを活用した処遇の向上等を通じて、働きがいのある組織および職場環境の形成を主な取組方針としております。

人財育成と組織の強化において、職種と専門性から目指すべき人財ポートフォリオを明確にし、事業の高付加価値化を実現する人財の拡充に向けた新人事制度の構築を推進しております。具体的には、スキルマネジメントシステムの導入、スキルマップの活用および組織構成・人員配置の最適化を実施すること、採用・教育の面においては、採用チャネルの多様化および研修体制の強化により多様性を確保しつつ専門性を向上させ、従業員の自律性を尊重し働きがいを追求してまいります。

また、事業の高付加価値化に向けたエンジニアリング人財の育成・増員を重要な課題としており、共通エンジニアリングスキルを体系的に習得したうえで、事業により異なる専門性に合わせたエンジニアリングスキルを習得することにより、各事業における専門性を深め、高度な施工を担える人財を確保してまいります。

事業環境が急速に変化するなか、積極的な人的資本への投資を通じて、これらの人財を獲得・定着させることが、中期経営計画を加速させる強力な機会になると認識しております。

さらに、健康経営優良法人認定の継続を基軸とした健康増進、福利厚生充実などにより働きやすさの向上に取り組み、従業員と事業がともに成長できる生き活きとした職場づくりを進めてまいります。

(2) 従業員の給与等の決定方針

給与の構成・体系

当社従業員の給与は、主に「基本給+役職手当」及び「賞与」で構成されております。

「基本給」は等級を基準とし、期初に設定した年間の業績目標の達成度並びに行動目標の発揮度を評価して決定しております。

「役職手当」は各役職の役割及び責任に応じて定めております。

「賞与」は、直近会計年度の会社業績に応じて支給を行っております。

給与水準の決定方法

経営環境や労働市場の変化、業界の報酬水準を踏まえ定期的に見直しを行い、持続的な企業価値向上に資する報酬体系への転換を指向し、新人事制度の構築に努めております。

決定のガバナンス・プロセス

給与規則の改訂、定期昇給方針、賞与支給方針は、取締役会において審議・決定しております。

定期昇給及び昇進昇格判定に反映される人事評価は、人事考課制度規程に基づき部門内評価を経て、人事委員会において最終評価を審議・確定しております。

基本給及び役職手当に反映される昇進昇格の判定は、人事処遇管理規程に基づき部門推薦、人事委員会による審議を経て、取締役会において決議しております。

経営戦略・業績との連動

当社の企業価値の源泉である高度なエンジニアリング力を提供できる施工管理者の獲得・定着に向けて施工管理職に対し経験とスキルに応じた「特殊技能手当」の支給を行っております。また、消防設備士や施工管理技士等、エンジニアリングスキル向上に資する公的資格取得に対し「資格手当」の支給を行っております。

賞与は年間基本支給月数を基礎に、直近会計年度における各部門業績目標達成率に応じた加減を反映した上で決定しております。

(2) 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

セグメント情報を記載していないため、営業種目別の従業員数を示すと次のとおりであります。

2026年3月31日現在

営業種目	従業員数(人)
防災設備事業	564 (48)
メンテナンス事業	110 (2)
商品事業	115 (5)
全社共通(工場含む)	406 (57)
合計	1,195 (112)

(注) 1. 従業員数は就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(人材会社からの派遣社員)は、年間の平均人員を()外数で記載しております。

2. 全社共通(工場含む)として記載されている従業員数は、特定の営業種目に区分できない管理(共通)部門及び工場に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

2026年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)	平均年間給与との 対前事業年度増減率 (%)
807 (108)	41.2	12.4	7,235	0.1

セグメント情報を記載していないため、営業種目別の従業員数を示すと次のとおりであります。

営業種目	従業員数(人)
防災設備事業	263 (45)
メンテナンス事業	72 (2)
商品事業	83 (5)
全社共通(工場含む)	389 (56)
合計	807 (108)

(注) 1. 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(人材会社からの派遣社員)は、年間の平均人員を()外数で記載しております。

2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

3. 全社共通(工場含む)として記載されている従業員数は、特定の営業種目に区分できない管理(共通)部門及び工場に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

当社グループの労働組合は結成されておりませんが、労使関係は安定しております。

(4) 管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率及び労働者の男女の賃金の差異
提出会社

当事業年度				
管理職に占める女性労働者の割合(%) (注)1.	男性労働者の育児休業取得率(%) (注)2.	労働者の男女の賃金の差異(%) (注)1.		
		全労働者	正規雇用労働者	パート・有期労働者
3.8	27.3	66.8	74.3	46.6

(注)1. 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出したものであります。

2. 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の6第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。

連結子会社

「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)及び「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定による公表義務の対象ではないため、記載を省略しております。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に準拠して作成し、同規則及び「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）第2条の規定に基づき、同規則及び「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（2025年4月1日から2026年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（2025年4月1日から2026年3月31日まで）の財務諸表について、PwC Japan有限責任監査法人による監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組について

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組を行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し連結財務諸表等の適正性を確保するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しており、社内規程やマニュアル等を整備し、連結財務諸表等の作成プロセスや適正性を確認しております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,535,527	10,656,990
受取手形、売掛金及び契約資産	² 13,423,493	² 14,915,632
電子記録債権	3,096,863	3,557,951
有価証券	677,528	1,096,919
商品及び製品	3,609,683	4,057,066
仕掛品	1,456,506	1,603,920
原材料及び貯蔵品	2,133,054	2,394,521
未成工事支出金	439,541	485,894
短期貸付金	96,909	100,445
その他	331,018	581,976
貸倒引当金	28,352	30,727
流動資産合計	34,771,774	39,420,592
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	¹ 6,493,183	¹ 6,724,208
減価償却累計額	2,654,078	2,917,114
建物及び構築物(純額)	3,839,105	3,807,093
機械装置及び運搬具	¹ 4,445,079	¹ 4,655,248
減価償却累計額	3,043,833	3,269,471
機械装置及び運搬具(純額)	1,401,245	1,385,776
工具、器具及び備品	1,581,378	1,622,079
減価償却累計額	1,328,446	1,374,714
工具、器具及び備品(純額)	252,931	247,364
土地	¹ 3,855,412	¹ 3,899,988
建設仮勘定	125,866	148,808
その他	380,074	402,527
減価償却累計額	297,303	339,450
その他(純額)	82,770	63,077
有形固定資産合計	9,557,331	9,552,108
無形固定資産		
のれん	507,397	357,885
ソフトウェア	73,244	53,449
その他	4,744	20,122
無形固定資産合計	585,386	431,457
投資その他の資産		
投資有価証券	2,045,477	2,931,963
長期貸付金	2,923,280	2,927,480
繰延税金資産	427,456	434,756
その他	³ 836,487	³ 1,541,191
貸倒引当金	207,613	215,630
投資その他の資産合計	6,025,087	7,619,760
固定資産合計	16,167,805	17,603,327
資産合計	50,939,579	57,023,919

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形、買掛金及び工事未払金	5,408,901	5,179,103
電子記録債務	2,334,906	991,210
短期借入金	1,413,309,037	1,416,966,545
1年内償還予定の社債	1,814,318	-
1年内返済予定の長期借入金	483,149	1,245,410
未払法人税等	667,191	2,127,759
契約負債	1,819,719	1,671,251
賞与引当金	1,462,791	1,899,485
役員賞与引当金	32,082	40,251
完成工事補償引当金	130,089	172,800
その他	1,643,798	2,122,842
流動負債合計	17,105,986	17,146,660
固定負債		
社債	-	397,299
長期借入金	1,175,465	1,020,000
役員退職慰労引当金	117,259	15,100
退職給付に係る負債	1,080,653	1,584,767
繰延税金負債	66,800	121,663
その他	299,555	381,512
固定負債合計	3,315,735	3,520,342
負債合計	20,421,721	20,667,003
純資産の部		
株主資本		
資本金	700,549	700,549
資本剰余金	3,023,864	3,032,103
利益剰余金	21,846,974	26,327,330
自己株式	890,180	883,555
株主資本合計	24,681,208	29,176,427
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	727,926	1,585,519
為替換算調整勘定	240,115	294,146
退職給付に係る調整累計額	15,117	3,052
その他の包括利益累計額合計	952,925	1,882,719
非支配株主持分	4,883,724	5,297,769
純資産合計	30,517,857	36,356,916
負債純資産合計	50,939,579	57,023,919

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
売上高	1 55,727,078	1 60,518,763
売上原価	3 40,912,457	3 43,234,577
売上総利益	14,814,620	17,284,186
販売費及び一般管理費	2, 3 8,686,368	2, 3 9,298,554
営業利益	6,128,252	7,985,631
営業外収益		
受取利息	78,409	67,312
受取配当金	58,100	76,480
持分法による投資利益	1,299	306
為替差益	-	87,069
受取保険金	3,149	33,222
新株予約権評価差額	34,280	34,781
その他	82,643	82,679
営業外収益合計	257,882	381,852
営業外費用		
支払利息	124,241	95,387
為替差損	411,616	-
その他	33,106	39,776
営業外費用合計	568,965	135,163
経常利益	5,817,169	8,232,320
特別利益		
固定資産売却益	4 1,787	4 15,289
特別利益合計	1,787	15,289
特別損失		
固定資産除売却損	5 73,272	5 1,559
公開買付関連費用	-	504,689
特別損失合計	73,272	506,248
税金等調整前当期純利益	5,745,685	7,741,361
法人税、住民税及び事業税	1,484,474	2,743,191
法人税等調整額	57,192	415,718
法人税等合計	1,541,666	2,327,472
当期純利益	4,204,018	5,413,888
非支配株主に帰属する当期純利益	245,734	330,344
親会社株主に帰属する当期純利益	3,958,283	5,083,544

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
当期純利益	4,204,018	5,413,888
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	14,163	857,592
為替換算調整勘定	280,290	154,312
退職給付に係る調整額	114,648	18,170
その他の包括利益合計	380,775	1,030,075
包括利益	3,823,242	6,443,964
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	3,719,534	6,013,338
非支配株主に係る包括利益	103,708	430,625

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自2024年4月1日 至2025年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	700,549	3,023,864	18,223,746	890,004	21,058,155
当期変動額					
剰余金の配当			335,055		335,055
親会社株主に帰属する当期純利益			3,958,283		3,958,283
自己株式の取得				175	175
自己株式の処分				-	-
その他					-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	3,623,227	175	3,623,052
当期末残高	700,549	3,023,864	21,846,974	890,180	24,681,208

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利 益累計額合計		
当期首残高	713,763	378,380	99,531	1,191,674	4,798,378	27,048,209
当期変動額						
剰余金の配当						335,055
親会社株主に帰属する当期純利益						3,958,283
自己株式の取得						175
自己株式の処分						-
その他						-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	14,163	138,264	114,648	238,749	85,345	153,403
当期変動額合計	14,163	138,264	114,648	238,749	85,345	3,469,648
当期末残高	727,926	240,115	15,117	952,925	4,883,724	30,517,857

当連結会計年度（自2025年4月1日 至2026年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	700,549	3,023,864	21,846,974	890,180	24,681,208
当期変動額					
剰余金の配当			603,188		603,188
親会社株主に帰属する当期純利益			5,083,544		5,083,544
自己株式の取得				640	640
自己株式の処分		6,545		7,265	13,810
その他		1,693			1,693
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	8,238	4,480,355	6,624	4,495,219
当期末残高	700,549	3,032,103	26,327,330	883,555	29,176,427

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利 益累計額合計		
当期首残高	727,926	240,115	15,117	952,925	4,883,724	30,517,857
当期変動額						
剰余金の配当						603,188
親会社株主に帰属する当期純利益						5,083,544
自己株式の取得						640
自己株式の処分						13,810
その他						1,693
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	857,592	54,031	18,170	929,794	414,045	1,343,839
当期変動額合計	857,592	54,031	18,170	929,794	414,045	5,839,058
当期末残高	1,585,519	294,146	3,052	1,882,719	5,297,769	36,356,916

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	5,745,685	7,741,361
減価償却費	734,155	734,456
のれん償却額	152,221	150,754
貸倒引当金の増減額(は減少)	26,351	10,146
賞与引当金の増減額(は減少)	89,910	436,694
役員賞与引当金の増減額(は減少)	13,567	8,169
完成工事補償引当金の増減額(は減少)	45,483	42,710
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	79,708	18,379
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	109,310	501,064
固定資産除売却損益(は益)	71,484	13,730
受取利息及び受取配当金	136,509	143,792
支払利息	124,241	95,387
受取保険金	3,149	33,222
持分法による投資損益(は益)	1,299	306
売上債権の増減額(は増加)	7,157,630	1,923,289
棚卸資産の増減額(は増加)	69,023	799,888
未成工事支出金の増減額(は増加)	67,399	46,353
契約負債の増減額(は減少)	768,026	148,467
仕入債務の増減額(は減少)	3,841,280	1,597,715
未払金の増減額(は減少)	20,419	50,787
未払消費税等の増減額(は減少)	99,106	32,211
その他	4,464	304,336
小計	10,877,826	4,709,838
利息及び配当金の受取額	136,250	144,530
利息の支払額	124,324	104,764
保険金の受取額	3,149	33,222
法人税等の支払額	1,950,231	1,366,110
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,942,669	3,416,716

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	1,274,946	614,288
有形固定資産の売却による収入	29,215	11,465
無形固定資産の取得による支出	30,750	19,563
有価証券の増減額(は増加)	181,863	25,822
保険積立金の積立による支出	11,023	5,939
保険積立金の解約による収入	2,817	6
敷金及び保証金の差入による支出	3,906	3,990
敷金及び保証金の回収による収入	1,792	4,004
その他	84,953	42,080
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,019,985	696,207
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(は減少)	2,707,023	369,970
長期借入れによる収入	556,500	1,000,000
長期借入金の返済による支出	834,838	957,180
社債の償還による支出	-	1,432,772
リース債務の返済による支出	41,125	39,564
自己株式の取得による支出	175	640
配当金の支払額	335,055	603,188
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,361,717	1,663,376
現金及び現金同等物に係る換算差額	51,520	37,315
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	4,509,445	1,094,447
現金及び現金同等物の期首残高	4,993,096	9,502,542
現金及び現金同等物の期末残高	9,502,542	10,596,990

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 6社

主要な連結子会社の名称

北海道ドライケミカル㈱

前連結会計年度において連結子会社でありました日本ドライメンテナンス㈱は、2025年10月1日付で吸収合併したため、連結の範囲から除いております。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法適用の関連会社数 1社

関連会社名の名称 ㈱イナートガスセンター

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

在外連結子会社の決算日は12月31日であり、M-tech株式会社は連結財務諸表作成にあたっては連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。その他の在外連結子会社は、各社の決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、連結決算日との間に生じた重要な取引について、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

棚卸資産

商品及び製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品

主として総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

未成工事支出金

個別法による原価法を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 3～50年

機械装置及び運搬具 2～17年

工具、器具及び備品 2～20年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については過去の貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員賞与の支出に備えるため、当連結会計年度における支給見込額に基づき計上しております。

役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えるため、当連結会計年度における支給見込額に基づき計上しております。

完成工事補償引当金

完成工事に係る将来の瑕疵補償に備えるため、過去の実績に基づきその発生見込額を計上しております。

役員退職慰労引当金

役員に対する退職慰労金の支給に備えるため、規程に基づく支給見込額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（8年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（8～16年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日連結会計年度から費用処理しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

当社および連結子会社の顧客との契約から生じる収益に関する、主要な事業における主な履行義務の内容および当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は、以下のとおりであります。

請負工事に関して、履行義務は一定の期間にわたり充足されると判断し、期間がごく短い工事を除き、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき収益を一定の期間にわたり認識しております。履行義務の充足に係る進捗度の見積りの方法は、見積総原価に対する発生原価の割合（インプット法）で算出しております。

なお、請負工事のうち、取引開始日から完全に履行義務を充足すると見込まれる時点までの期間がごく短い場合については、金額的重要性も鑑みて、収益認識に関する会計基準の適用指針第95項、第96項に定める代替的な取扱いを適用し、完全に履行義務を充足した時点（工事が完了した時点）で収益を認識しております。

保守点検および機器の据付等に関して、履行義務は保守点検および機器の据付等が完了した一時点において充足されると判断し、保守点検および機器の据付等の完了時点で収益を認識しております。

商品および製品の販売に関して、履行義務は顧客に商品および製品を引き渡した一時点で充足されると判断し、商品および製品の引き渡し時点で収益を認識しております。

なお、収益認識に関する会計基準の適用指針第98項に定める代替的な取扱いを適用し、国内販売において、出荷時から支配移転時までの間が通常の期間である場合には、商品および製品の出荷時に収益を認識しております。

(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理してあります。

なお、在外子会社の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上してあります。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、投資効果が及ぶ期間（20年以内）で均等償却を行っております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクが負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(連結貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
建物及び構築物	760,491千円	538,151千円
機械装置及び運搬具	296,146	487,933
土地	2,261,881	2,126,642
計	3,318,518	3,152,728

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
短期借入金	26,341千円	596,545千円
1年内返済予定の長期借入金	-	547,000
長期借入金	1,022,200	-
計	1,048,541	1,143,545

2 受取手形、売掛金及び契約資産のうち、顧客との契約から生じた債権の金額は、それぞれ以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
受取手形	526,812千円	140,083千円
売掛金	10,514,745	11,535,438
契約資産	2,381,935	3,240,110

3 関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
その他(関係会社株式)	56,423千円	56,802千円
その他(関係会社長期貸付金)	50,000	50,000

4 当社グループは、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行9行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
当座貸越極度額の総額	7,857,600千円	7,959,400千円
借入実行残高	1,100,000	1,100,000
差引額	6,757,600	6,859,400

(連結損益計算書関係)

1 顧客との契約から生じる収益

売上高については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、連結財務諸表「注記事項(収益認識関係)1.顧客との契約から生じる収益を分解した情報」に記載しております。

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
従業員給料及び手当	3,044,383千円	3,152,091千円
賞与引当金繰入額	963,666	1,248,629
退職給付費用	134,972	145,898

3 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
	536,098千円	629,420千円

4 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
機械装置及び運搬具	1,787千円	15,289千円
計	1,787	15,289

5 固定資産除売却損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
建物及び構築物	47,919千円	77千円
機械装置及び運搬具	23,086	742
工具、器具及び備品	972	740
その他	1,295	-
計	73,272	1,559

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額並びに法人税等及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	32,670千円	1,252,326千円
組替調整額	-	-
法人税等及び税効果調整前	32,670	1,252,326
法人税等及び税効果額	18,506	394,733
その他有価証券評価差額金	14,163	857,592
為替換算調整勘定：		
当期発生額	280,290千円	154,312千円
組替調整額	-	-
法人税等及び税効果調整前	280,290	154,312
法人税等及び税効果額	-	-
為替換算調整勘定	280,290	154,312
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	123,998千円	45,245千円
組替調整額	43,197	17,863
法人税等及び税効果調整前	167,196	27,381
法人税等及び税効果額	52,547	9,211
退職給付に係る調整額	114,648	18,170
その他の包括利益合計	380,775	1,030,075

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自2024年4月1日 至2025年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	7,181,812	-	-	7,181,812
合計	7,181,812	-	-	7,181,812
自己株式				
普通株式 (注)	480,693	51	-	480,744
合計	480,693	51	-	480,744

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加51株は、単元未満株式の買取りによる増加51株であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
2024年6月25日 定時株主総会	普通株式	234,539	利益剰余金	35.00	2024年3月31日	2024年6月26日
2024年11月11日 取締役会	普通株式	100,516	利益剰余金	15.00	2024年9月30日	2024年12月16日

(注) 2024年6月25日開催の定時株主総会における1株当たり配当額については、特別配当7円が含まれております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議予定)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
2025年6月26日 定時株主総会	普通株式	368,558	利益剰余金	55.00	2025年3月31日	2025年6月27日

(注) 1株当たり配当額については、記念配当15円が含まれております。

当連結会計年度（自2025年4月1日 至2026年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	7,181,812	-	-	7,181,812
合計	7,181,812	-	-	7,181,812
自己株式				
普通株式 (注) 1. 2.	480,744	100	2,708	478,136
合計	480,744	100	2,708	478,136

(注) 1. 普通株式の自己株式の株式数の増加100株は、単元未満株式の買取りによる増加100株であります。

2. 普通株式の自己株式の株式数の減少2,708株は、自己株式の処分による減少2,708株であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
2025年6月26日 定時株主総会	普通株式	368,558	利益剰余金	55.00	2025年3月31日	2025年6月27日
2025年11月11日 取締役会	普通株式	234,629	利益剰余金	35.00	2025年9月30日	2025年12月15日

(注) 2025年6月25日開催の定時株主総会における1株当たり配当額については、記念配当15円が含まれております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議予定)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
2026年6月26日 定時株主総会	普通株式	368,702	利益剰余金	55.00	2026年3月31日	2026年6月29日

(注) 当社は2026年4月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。1株当たり配当額については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
現金及び預金勘定	9,535,527千円	10,656,990千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	32,984	60,000
現金及び現金同等物	9,502,542	10,596,990

(リース取引関係)

該当事項はありません。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形、売掛金及び契約資産、電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されております。営業債務である支払手形、買掛金及び工事未払金、電子記録債務は、そのほとんどが1ヶ月以内の支払期日であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、与信管理規程に従い、営業債権について財務部が取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の与信管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

投資有価証券については、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限及び取引限度額等を定めた社内ルールに従い、財務部が決裁担当者の承認を得て行っております。金利スワップ取引については、取締役会決議に基づき行っております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、各部署からの報告に基づき財務部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持等により流動性リスクを管理しております。連結子会社においては、各社の担当者が、当社と同様の管理を行っております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度（2025年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時 価 (千円)	差 額 (千円)
(1) 短期貸付金	96,909	112,930	16,021
(2) 有価証券及び 投資有価証券 (* 2)	2,624,990	2,624,990	-
(3) 長期貸付金	2,923,280	2,924,300	1,020
資産計	5,645,179	5,662,221	17,042
(1) 社債	1,814,318	1,808,588	5,730
(2) 長期借入金 (* 4)	2,234,614	2,257,072	22,457
負債計	4,048,933	4,065,660	16,727

当連結会計年度（2026年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時 価 (千円)	差 額 (千円)
(1) 有価証券及び 投資有価証券 (* 2)	3,930,868	3,930,868	-
(2) 長期貸付金 (* 3)	3,027,925	2,932,849	95,075
資産計	6,958,793	6,863,717	95,075
(1) 社債	397,299	407,779	10,480
(2) 長期借入金 (* 4)	2,265,410	2,260,424	4,985
負債計	2,662,709	2,668,204	5,495

(* 1) 現金は注記を省略しており、預金、受取手形、売掛金及び契約資産、電子記録債権、支払手形、買掛金及び工事未払金、電子記録債務、短期借入金、未払法人税等は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(* 2) 市場価格のない株式等は、「(2) 有価証券及び投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	前連結会計年度 (千円)	当連結会計年度 (千円)
非上場株式	98,015	98,015

(* 3) 長期貸付金には1年内返済予定の長期貸付金を含めております。

(* 4) 長期借入金には1年内返済予定の長期借入金を含めております。

(注) 1. 金銭債権および満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2025年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超5年 以内(千円)	5年超10年 以内(千円)	10年超 (千円)
有価証券及び投資有価証券	677,528	365,840	-	-
短期貸付金	96,909	-	-	-
長期貸付金	-	2,923,280	-	-
合計	774,437	3,289,120	-	-

当連結会計年度(2026年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超5年 以内(千円)	5年超10年 以内(千円)	10年超 (千円)
有価証券及び投資有価証券	1,096,919	-	-	-
長期貸付金	100,445	2,927,480	-	-
合計	1,197,365	2,927,480	-	-

2. 社債、長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2025年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	1,309,037	-	-	-	-	-
社債	1,814,318	-	-	-	-	-
長期借入金	483,149	1,047,265	704,200	-	-	-
合計	3,606,505	1,047,265	704,200	-	-	-

当連結会計年度(2026年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	1,696,545	-	-	-	-	-
社債	-	397,299	-	-	-	-
長期借入金	1,245,410	420,000	200,000	200,000	200,000	-
合計	2,941,955	817,299	200,000	200,000	200,000	-

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品 前連結会計年度（2025年3月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券				
株式	1,581,622	-	-	1,581,622
債券	-	1,043,368	-	1,043,368
資産計	1,581,622	1,043,368	-	2,624,990

当連結会計年度（2026年3月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券				
株式	2,833,948	-	-	2,833,948
債券	-	1,096,919	-	1,096,919
資産計	2,833,948	1,096,919	-	3,930,868

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品 前連結会計年度（2025年3月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
短期貸付金	-	112,930	-	112,930
長期貸付金	-	2,924,300	-	2,924,300
資産計	-	3,037,231	-	3,037,231
社債	-	1,808,588	-	1,808,588
長期借入金	-	2,257,072	-	2,257,072
負債計	-	4,065,660	-	4,065,660

当連結会計年度（2026年3月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期貸付金	-	2,932,849	-	2,932,849
資産計	-	2,932,849	-	2,932,849
社債	-	407,779	-	407,779
長期借入金	-	2,260,424	-	2,260,424
負債計	-	2,668,204	-	2,668,204

（注） 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明
有価証券及び投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。一方で、当社グループが保有している債券は、市場での取引頻度が低く、活発な市場における相場価格とは認められないため、その時価をレベル2の時価に分類しております。

短期貸付金

短期貸付金の時価は、元利金の合計額と、当該債権の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

長期貸付金

長期貸付金の時価は、元利金の合計額と、当該債権の残存期間および信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

社債及び長期借入金

社債及び長期借入金の時価は、元利金の合計額と、当該債務の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

1. 売買目的有価証券
該当事項はありません。
2. 満期保有目的の債券
該当事項はありません。
3. その他有価証券
前連結会計年度(2025年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上 額が取得原価を超え るもの	(1) 株式	1,296,712	227,686	1,069,025
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	1,296,712	227,686	1,069,025
連結貸借対照表計上 額が取得原価を超え ないもの	(1) 株式	284,910	292,491	7,581
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	1,043,368	1,043,368	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	1,328,278	1,335,859	7,581
合計		2,624,990	1,563,546	1,061,444

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額98,015千円)は、市場価格のない株式等のため、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(2026年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上 額が取得原価を超え るもの	(1) 株式	2,833,948	520,178	2,313,770
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	2,833,948	520,178	2,313,770
連結貸借対照表計上 額が取得原価を超え ないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	1,096,919	1,096,919	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	1,096,919	1,096,919	-
合計		3,930,868	1,617,098	2,313,770

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額98,015千円)は、市場価格のない株式等のため、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

4. 売却したその他有価証券
該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を採用しております。連結子会社は、主として退職金共済等を採用しております。

なお、一部の連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しています。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
退職給付債務の期首残高	2,960,466千円	3,056,594千円
勤務費用	261,002	256,113
利息費用	34,169	32,815
数理計算上の差異の発生額	72,524	56,582
退職給付の支払額	248,724	225,014
その他	22,844	6,373
退職給付債務の期末残高	3,056,594	3,170,718

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
年金資産の期首残高	1,981,604千円	1,975,940千円
期待運用収益	51,536	50,890
数理計算上の差異の発生額	13,955	161,667
事業主からの拠出額	130,073	124,793
退職給付の支払額	169,243	150,964
その他	4,075	1,898
年金資産の期末残高	1,975,940	2,164,225

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	3,056,594千円	1,895,489千円
年金資産	1,975,940	2,164,225
	1,080,653	268,735
非積立型制度の退職給付債務	-	1,275,228
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,080,653	1,006,492
退職給付に係る負債	1,080,653	1,584,767
退職給付に係る資産	-	578,275
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,080,653	1,006,492

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
勤務費用	261,002千円	256,113千円
利息費用	34,169	32,815
期待運用収益	51,536	50,890
数理計算上の差異の費用処理額	30,919	17,863
過去勤務費用の費用処理額	12,277	-
確定給付制度に係る退職給付費用	200,438	220,174

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(法人税等及び税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
過去勤務費用	12,277千円	- 千円
数理計算上の差異	154,918	27,381
合計	167,196	27,381

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(法人税等及び税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
未認識過去勤務費用	- 千円	- 千円
未認識数理計算上の差異	51,238	23,857
合計	51,238	23,857

(7) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
債券	41%	43%
生命保険一般勘定	15	14
株式	33	31
その他	11	12
合計	100	100

(注) 年金資産合計には、企業年金制度に対して設定した退職給付信託が前連結会計年度61%、当連結会計年度63%含まれております。

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
割引率	0.615%	0.615%
長期期待運用収益率	2.5%	2.5%

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金	41,447千円	46,743千円
賞与引当金	422,600	604,721
未払事業税	44,132	109,255
完成工事補償引当金	39,833	54,466
退職給付に係る負債	333,542	504,484
棚卸資産評価損	236,194	390,907
減価償却費限度超過額	10,833	9,456
減損損失	14,182	-
時価評価による評価差額	31,499	17,167
投資有価証券評価損	36,772	36,772
固定資産除却損	10,447	10,447
為替差損益	-	3,909
その他	197,705	333,897
繰延税金資産小計	1,390,824	2,122,229
評価性引当額	289,597	446,458
繰延税金資産合計	1,101,226	1,675,770
繰延税金負債		
前払年金費用	-	182,272
固定資産圧縮積立金	79,917	78,426
特別償却準備金	13,850	9,235
為替差損益	4,039	-
その他有価証券評価差額金	334,567	729,300
時価評価による評価差額	308,196	363,442
繰延税金負債合計	740,571	1,362,677
繰延税金資産の純額	360,655	313,092

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
法定実効税率	30.6%	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.4	
住民税均等割	0.6	
評価性引当額の増減額	1.3	
連結調整項目	0.8	
税率変更による差異	0.1	
税額控除	3.3	
その他	1.0	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	26.8	

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社グループは、各種防災設備の設計・施工・保守点検、消火器及び消防自動車の製造・販売、防災用品の仕入・販売等の防災事業の単一セグメントであるため、業績等については営業種目別に記載しております。

防災事業の顧客との契約に基づき分解した売上収益は、営業種目別の売上高と同一であり、営業種目別及び収益認識の時期による売上収益の分解は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
営業種目別		
防災設備事業	33,426,621	36,797,342
メンテナンス事業	10,160,754	10,105,091
商品事業	12,139,701	13,616,329
顧客との契約から生じる収益	55,727,078	60,518,763
収益認識の時期		
一時点で移転される財又はサービス	27,753,037	27,742,979
一定の期間にわたり移転される財又はサービス	27,974,040	32,775,784
顧客との契約から生じる収益	55,727,078	60,518,763

2. 収益を理解するための基礎となる情報

請負工事に関して、履行義務は一定の期間にわたり充足されると判断し、期間がごく短い工事を除き、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき収益を一定の期間にわたり認識しております。履行義務の充足に係る進捗度の見積りの方法は、見積総原価に対する発生原価の割合(インプット法)で算出しております。代金は、取引先との契約に基づき、概ね3ヵ月以内に回収しております。

保守点検および機器の据付等に関して、履行義務は保守点検および機器の据付等が完了した一時点において充足されると判断し、保守点検および機器の据付等の完了時点で収益を認識しております。代金は、引渡し時点を中心に、概ね3ヵ月以内に回収しております。

商品および製品の販売に関して、履行義務は顧客に商品および製品を引き渡した一時点で充足されると判断し、商品および製品の引き渡し時点で収益を認識しております。

なお、収益認識に関する会計基準の適用指針第98項に定める代替的な取扱いを適用し、国内販売において、出荷時から支配移転時までの間が通常の間である場合には、商品および製品の出荷時に収益を認識しております。代金は、引渡し時点を中心に、概ね3ヵ月以内に回収しております。

3. 当連結会計年度及び翌連結会計年度以降の収益の金額を理解するための情報

(1) 契約資産及び契約負債の残高等

契約資産は主に、請負契約等において進捗度の測定に基づいて認識した収益にかかる未請求売掛金であり、連結貸借対照表上、受取手形、売掛金及び契約資産に含まれております。

契約負債は主に、請負契約における顧客からの前受金であります。

契約資産及び契約負債の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

	前連結会計年度末	当連結会計年度末
契約資産(期首残高)	2,068,707千円	2,381,935千円
契約資産(期末残高)	2,381,935	3,240,110
契約負債(期首残高)	1,051,692	1,819,719
契約負債(期末残高)	1,819,719	1,671,251

前連結会計年度及び当連結会計年度に認識した収益のうち、期首現在の契約負債残高に含まれていた金額は、それぞれ553,269千円及び1,251,121千円です。

また、前連結会計年度及び当連結会計年度において、過去の期間に充足した履行義務から認識した収益の額には重要性はありません。

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

残存履行義務に配分した取引価格の総額及び収益の認識が見込まれる期間は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度末	当連結会計年度末
1年以内	21,815,305千円	21,112,805千円
1年超	8,058,392	8,043,675
合計	29,873,697	29,156,481

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前連結会計年度(自2024年4月1日 至2025年3月31日)

当社グループは、各種防災設備の設計・施工・保守点検、消火器及び消防自動車の製造・販売、防災用品の仕入・販売等の防災事業を行っており、単一セグメントに属しているため、セグメント情報は記載を省略しております。

当連結会計年度(自2025年4月1日 至2026年3月31日)

当社グループは、各種防災設備の設計・施工・保守点検、消火器及び消防自動車の製造・販売、防災用品の仕入・販売等の防災事業を行っており、単一セグメントに属しているため、セグメント情報は記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度（自2024年4月1日 至2025年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	防災設備	メンテナンス	商品	合計
外部顧客への売上高	33,426,621	10,160,754	12,139,701	55,727,078

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

（単位：千円）

日本	韓国	その他	合計
48,334,641	5,670,369	1,722,068	55,727,078

（注）売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

（単位：千円）

日本	韓国	その他	合計
4,390,081	5,163,001	4,248	9,557,331

3．主要な顧客ごとの情報

特定の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自2025年4月1日 至2026年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	防災設備	メンテナンス	商品	合計
外部顧客への売上高	36,797,342	10,105,091	13,616,329	60,518,763

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

（単位：千円）

日本	韓国	その他	合計
53,930,540	5,228,367	1,359,856	60,518,763

（注）売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

（単位：千円）

日本	韓国	その他	合計
4,499,462	5,050,917	1,728	9,552,108

3．主要な顧客ごとの情報

特定の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自2024年4月1日 至2025年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自2025年4月1日 至2026年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自2024年4月1日 至2025年3月31日）

当社グループは、防災事業のみの単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自2025年4月1日 至2026年3月31日）

当社グループは、防災事業のみの単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自2024年4月1日 至2025年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自2025年4月1日 至2026年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

前連結会計年度（自2024年4月1日 至2025年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自2025年4月1日 至2026年3月31日）

該当事項はありません。

(イ) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

前連結会計年度（自2024年4月1日 至2025年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
関連会社	㈱イナートガスセンター	千葉県山武市	60,000	製造業	(所有) 直接 50.0	商品の仕入資金の貸付	資金の貸付	20,000	投資その他の資産(その他)	50,000
							利息の受取	328	その他流動資産(未収入金)	-

当連結会計年度（自2025年4月1日 至2026年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
関連会社	㈱イナートガスセンター	千葉県山武市	60,000	製造業	(所有) 直接 50.0	商品の仕入資金の貸付	資金の貸付	-	投資その他の資産(その他)	50,000
							利息の受取	234	その他流動資産(未収入金)	-

(ウ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

前連結会計年度（自2024年4月1日 至2025年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
子会社の役員	Juhwan Oh	-	-	Masteco Industry Co., Ltd. 代表理事	(被所有) 0.0	資金の貸付	資金の貸付	82,560	短期貸付金	81,360
									長期貸付金	2,888,280
							利息の受取	17,754	その他流動資産(未収入金)	4,137
						担保の受入	-	-	-	

(注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

資金の貸付の金利条件は、市場金利を勘案し、両者の協議により決定しております。

また、当連結会計年度に貸付金の返済期限を延長しており、返済日が当連結会計年度末から1年を超える貸付金については、長期貸付金へ組替えております。

2. 資金の貸付の取引金額については前期末残高との純増減額を記載しております。

3. 同氏より、当社の貸付金に対する担保としてMasteco社株式の提供を受けております。

当連結会計年度（自2025年4月1日 至2026年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
子会社の 役員	Juhwan Oh	-	-	Masteco Industry Co., Ltd. 代表理事	(被所有) 0.0	資金の貸付	資金の貸付	87,040	短期 貸付金	83,840
									長期 貸付金	2,892,480
							利息の受取	17,688	その他 流動資産 (未収入金)	4,150
							担保の受入	-	-	-

(注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

資金の貸付の金利条件は、市場金利を勘案し、両者の協議により決定しております。

2. 資金の貸付の取引金額については前期末残高との純増減額を記載しております。

3. 同氏より、当社の貸付金に対する担保としてMasteco社株式の提供を受けております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

前連結会計年度（自2024年4月1日 至2025年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自2025年4月1日 至2026年3月31日）

該当事項はありません。

(イ) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

前連結会計年度（自2024年4月1日 至2025年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自2025年4月1日 至2026年3月31日）

該当事項はありません。

(ウ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

前連結会計年度（自2024年4月1日 至2025年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自2025年4月1日 至2026年3月31日）

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)		当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)	
1株当たり純資産額	956.35円	1株当たり純資産額	1,158.29円
1株当たり当期純利益金額	147.67円	1株当たり当期純利益金額	189.61円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1. 当社は、2026年2月20日開催の当社取締役会決議に基づき、2026年4月1日付で株式1株につき4株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	30,517,857	36,356,916
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	4,883,724	5,297,769
(うち非支配株主持分(千円))	(4,883,724)	(5,297,769)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	25,634,133	31,059,147
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	26,804,272	26,814,704

3. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益金額(千円)	3,958,283	5,083,544
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益金額(千円)	3,958,283	5,083,544
期中平均株式数(株)	26,804,402	26,810,833

(重要な後発事象)

(株式分割及び株式分割に伴う定款の一部変更)

当社は、2026年2月20日開催の取締役会決議に基づき、2026年4月1日付で株式分割及び株式分割に伴う定款の一部変更を行っております。

(1) 株式分割の目的

当社株式の投資単位当たりの金額を引き下げることにより、投資家の皆様がより投資しやすい環境を整え、投資家層のさらなる拡大を図ることを目的としております。

(2) 株式分割の概要

分割の方法

2026年3月31日(火)を基準日として、同日最終の株主名簿に記載又は記録された株主の所有する普通株式を、1株につき4株の割合をもって分割いたしました。

分割により増加する株式数

株式分割前の発行済株式総数	7,181,812株
株式分割により増加する株式数	21,545,436株
株式分割後の発行済株式総数	28,727,248株
株式分割後の発行可能株式総数	56,000,000株

株式分割の日

基準日公告日	2026年3月11日(水)
基準日	2026年3月31日(火)
効力発生日	2026年4月1日(水)

1株当たり情報に及ぼす影響

当該株式分割が前事業年度の期首に行われたと仮定した場合の1株当たり情報は、(1株当たり情報の注記)に記載のとおりであります。

(3) 株式分割に伴う定款の一部変更

定款変更の理由

今回の株式分割に伴い、会社法第184条第2項の規定に基づき、2026年4月1日(水)を効力発生日として、当社定款の一部を変更いたしました。

定款変更の内容

(下線は変更箇所を示しております。)

現行定款	変更後定款
第2章 株式	第2章 株式
第6条 (発行可能株式総数) 当社の発行可能株式総数は、 <u>1,400</u> 万株とする。	第6条 (発行可能株式総数) 当社の発行可能株式総数は、 <u>5,600</u> 万株とする。

定款変更の日程

効力発生日	2026年4月1日(水)
-------	--------------

(TCG2511株式会社による当社株式に対する公開買付けの結果及び親会社、主要株主及び主要株主である筆頭株主の異動)

当社は、2026年5月13日開催の取締役会において、TCG2511株式会社(以下「公開買付者」といいます。)による当社の普通株式(以下「当社株式」といいます。)に対する公開買付け(以下「本公開買付け」といいます。)に賛同の意見を表明するとともに、当社の株主の皆様に対して、本公開買付けへの応募を推奨することを決議いたしました。

なお、当該取締役会決議は、公開買付者が本公開買付け及びその後の一連の手続きを経て、当社株式を非公開化することを企図していること、並びに当社株式が上場廃止となる予定であることを前提として行われたものです。

本公開買付けは、2026年5月14日から2026年6月29日まで実施され、2026年6月30日付「TCG2511株式会社による当社株式に対する公開買付けの結果並びに親会社、主要株主及び主要株主である筆頭株主の異動に関するお知らせ」において公表しているとおり、当社は公開買付者より、本公開買付けに応募された当社株式の数の合計が買付予定数の下限(13,465,700株)以上となりましたので、本公開買付けは成立した旨の報告を受けました。

本公開買付けの結果、2026年7月6日(本公開買付けの決済の開始日)をもって、当社の総株主の議決権に対する公開買付者の所有する議決権の割合が50%を超えることとなるため、公開買付者は、新たに当社の親会社、主要株主及び主要株主である筆頭株主に該当することとなりました。これに伴い、当社のその他の関係会社、主要株主及び主要株主である筆頭株主であるALSOK株式会社は、2026年7月6日(本公開買付けの決済の開始日)をもって、当社の主要株主である筆頭株主に該当しないこととなります。

新たに親会社、主要株主及び主要株主である筆頭株主に該当することとなる株主の概要

(1) 名称	TCG2511株式会社	
(2) 所在地	東京都千代田区丸の内一丁目5番1号	
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役 齋藤 玄太	
(4) 事業内容	1. 会社の株式又は持分を所有することにより、当該会社の事業活動を支配・管理する業務 2. 上記に付帯関連する一切の業務	
(5) 資本金	25,000円	
(6) 設立年月日	2025年12月18日	
(7) 大株主及び持株比率	CJPVHC Holdings XI, L.P.	50.00%
	ALSOK株式会社	50.00%
(8) 当社と公開買付者の関係		
資本関係	該当事項はありません。 ただし、公開買付者の発行済株式の50.00%を所有するALSOK株式会社(以下「ALSOK」といいます。)は、当社株式を4,400,000株(所有割合:16.41%)所有しており、当社は、ALSOKの普通株式を175,000株所有しております。	
人的関係	該当事項はありません。 ただし、当社は、公開買付者の発行済株式の50.00%を所有するALSOKから取締役1名の出向を受け入れております。	
取引関係	該当事項はありません。 ただし、当社は、公開買付者の発行済株式の50.00%を所有するALSOKと資本業務提携を行っており、ALSOKの顧客網を活用した当社商品・サービスの展開、ALSOKの警備サービスと当社の防災設備を組み合わせたパッケージ商品の開発、共同でのマーケティング活動等を行っております。	
関連当事者への該当状況	該当事項はありません。 ただし、当社は、公開買付者の発行済株式の50.00%を所有するALSOKの持分法適用関連会社です。	

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率(%)	担保	償還期限
Masteco Industry Co., Ltd.	第1回新株予約権付社債 (注)1、2、3、4	2016.10.10	614,318 (614,318) [5,709,281 千ウォン]	397,299 (-) [3,631,618 千ウォン]	8.00	なし	2027.10.9
日本ドライケミ カル株式会社	第1回無担保社債 (注)1	2020.11.30	1,200,000 (1,200,000)	-	0.05	なし	2025.11.28
合計	-	-	1,814,318 (1,814,318)	397,299 (-)	-	-	-

(注)1. 「当期首残高」及び「当期末残高」欄の(内書)は、1年内償還予定の金額であります。

2. 外国において発行したものであるため、[]内に外貨建による金額を付記しております。

3. 新株予約権付社債に関する記載は次のとおりであります。

銘柄	第1回
発行すべき株式	普通株式
新株予約権の発行価額(ウォン)	無償
株式の発行価格(ウォン)	3,000
発行価額の総額(千ウォン)	26,000,000
新株予約権の行使により発行した株式の発行価額の総額(千ウォン)	20,499,999
新株予約権の付与割合(%)	100
新株予約権の行使期間	自 2016年10月10日 至 2027年10月9日

4. 連結決算日後5年間の償還予定額は以下のとおりであります。

1年以内 (千円)	1年超2年 以内 (千円)	2年超3年 以内 (千円)	3年超4年 以内 (千円)	4年超5年 以内 (千円)
-	397,299	-	-	-

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,309,037	1,696,545	1.98%	-
1年以内に返済予定の長期借入金	483,149	1,245,410	2.01%	-
1年以内に返済予定のリース債務	39,936	26,041	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,751,465	1,020,000	1.43%	2027年～2031年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	33,115	29,151	-	2027年～2031年
その他有利子負債 長期預り保証金	192,136	194,204	1.33%	-
合計	3,808,840	4,211,352	-	-

(注) 1. 平均利率については、短期借入金、長期借入金及び長期預り保証金の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

- リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。
- その他有利子負債「長期預り保証金」は、連結貸借対照表では固定負債「その他」に含めて表示しております。「長期預り保証金」は営業取引保証金であり、営業取引の継続中は原則として返済を予定していないため、契約上連結決算日後5年間における返済予定額はありませぬ。
- 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	420,000	200,000	200,000	200,000
リース債務	11,030	8,335	6,163	3,621

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	中間連結会計期間	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	12,829,016	26,602,319	43,007,906	60,518,763
税金等調整前中間(当期) (四半期)純利益金額(千円)	1,644,827	3,575,721	6,341,504	7,741,361
親会社株主に帰属する中間(当期) (四半期)純利益(千円)	1,000,987	2,187,501	4,105,449	5,083,544
1株当たり中間(当期) (四半期)純利益金額(円)	37.34	81.60	153.13	189.61

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額(円)	37.34	44.26	71.53	36.48

(注) 1. 当社は、第1四半期及び第3四半期について金融商品取引所の定める規則により四半期に係る財務情報を作成しており、当該四半期に係る財務情報に対する期中レビューを受けております。

- 当社は、2026年4月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っており、当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり中間(当期)(四半期)純利益を算定しております。

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,190,407	6,930,466
受取手形	448,638	110,727
電子記録債権	3,009,391	3,517,844
売掛金及び契約資産	10,245,312	12,276,012
商品及び製品	2,885,652	3,130,683
仕掛品	548,462	677,431
原材料及び貯蔵品	1,332,924	1,463,651
未成工事支出金	426,732	447,928
前渡金	1,514	1,418
前払費用	111,917	133,537
短期貸付金	81,360	83,840
関係会社短期貸付金	30,476	906,424
その他	109,372	290,538
貸倒引当金	7,042	9,229
流動資産合計	25,415,119	29,961,275
固定資産		
有形固定資産		
建物	3,783,083	3,975,098
減価償却累計額	1,620,943	1,777,701
建物(純額)	2,162,139	2,197,396
構築物	497,268	498,963
減価償却累計額	360,590	374,829
構築物(純額)	136,677	124,133
機械及び装置	1,267,284	1,444,167
減価償却累計額	973,796	976,074
機械及び装置(純額)	293,488	468,093
車両運搬具	29,484	29,484
減価償却累計額	29,268	29,372
車両運搬具(純額)	216	112
工具、器具及び備品	1,243,218	1,265,257
減価償却累計額	1,050,842	1,069,766
工具、器具及び備品(純額)	192,375	195,490
土地	383,659	383,659
リース資産	32,987	32,987
減価償却累計額	23,856	26,449
リース資産(純額)	9,130	6,537
建設仮勘定	117,647	79,857
その他	83,638	89,777
減価償却累計額	69,773	78,976
その他(純額)	13,864	10,800
有形固定資産合計	3,309,200	3,466,082

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
無形固定資産		
ソフトウェア	60,316	40,806
その他	4,055	19,480
無形固定資産合計	64,371	60,286
投資その他の資産		
投資有価証券	1,679,637	2,931,963
関係会社株式	3,727,140	3,717,140
出資金	61	61
長期貸付金	2,888,280	2,892,480
関係会社長期貸付金	969,368	92,968
破産更生債権等	1,879	-
長期前払費用	630	630
繰延税金資産	417,078	373,031
その他	134,473	735,495
貸倒引当金	1,879	-
投資その他の資産合計	9,816,668	10,743,769
固定資産合計	13,190,240	14,270,138
資産合計	38,605,360	44,231,413

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	124,674	12,727
電子記録債務	2,334,906	991,210
買掛金	3,702,478	3,608,707
短期借入金	1,100,000	1,100,000
1年内償還予定の社債	1,200,000	-
1年内返済予定の長期借入金	470,000	660,000
リース債務	2,593	2,593
未払金	255,836	370,558
未払費用	316,410	716,769
未払法人税等	527,616	2,019,619
契約負債	1,805,200	1,455,491
前受金	7,803	17,593
関係会社預り金	311,664	249,384
賞与引当金	1,306,581	1,724,260
役員賞与引当金	32,082	40,251
完成工事補償引当金	130,089	172,800
その他	453,809	422,093
流動負債合計	14,081,748	13,564,062
固定負債		
長期借入金	680,000	1,020,000
リース債務	6,537	3,944
退職給付引当金	675,398	1,236,243
役員退職慰労引当金	79,809	-
長期預り保証金	192,136	194,204
その他	-	83,780
固定負債合計	1,633,882	2,538,173
負債合計	15,715,631	16,102,236
純資産の部		
株主資本		
資本金	700,549	700,549
資本剰余金		
資本準備金	700,549	700,549
その他資本剰余金	397,731	404,276
資本剰余金合計	1,098,281	1,104,826
利益剰余金		
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	172,786	169,407
特別償却準備金	30,785	20,328
繰越利益剰余金	21,049,580	25,432,100
利益剰余金合計	21,253,151	25,621,836
自己株式	890,180	883,555
株主資本合計	22,161,802	26,543,657
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	727,926	1,585,519
評価・換算差額等合計	727,926	1,585,519
純資産合計	22,889,729	28,129,176
負債純資産合計	38,605,360	44,231,413

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
売上高	43,239,299	49,042,557
売上原価	31,907,737	35,018,682
売上総利益	11,331,561	14,023,874
販売費及び一般管理費	¹ 6,220,304	¹ 6,847,427
営業利益	5,111,257	7,176,446
営業外収益		
受取利息	38,544	40,596
為替差益	-	103,537
受取配当金	58,100	76,480
受取事務手数料	² 128,883	² 123,686
受取保険金	3,149	11,720
その他	23,716	14,970
営業外収益合計	252,394	370,991
営業外費用		
支払利息	19,091	18,783
為替差損	450,079	-
その他	25,142	4,414
営業外費用合計	494,313	23,197
経常利益	4,869,338	7,524,240
特別利益		
抱合せ株式消滅差益	-	129,020
特別利益合計	-	129,020
特別損失		
固定資産除売却損	³ 50,701	³ 410
公開買付関連費用	-	504,689
特別損失合計	50,701	505,099
税引前当期純利益	4,818,636	7,148,161
法人税、住民税及び事業税	1,230,943	2,522,191
法人税等調整額	25,630	345,902
法人税等合計	1,256,574	2,176,288
当期純利益	3,562,062	4,971,873

【製造原価明細書】

a【完成工事原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)		当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費		3,979,185	20.8	4,876,688	21.6
労務費		1,162,820	6.1	1,383,827	6.1
外注工事費		13,194,912	69.1	15,457,364	68.4
経費	2	770,949	4.0	890,557	3.9
当期工事費用合計		19,107,868	100.0	22,608,438	100.0
期首未成工事支出金繰越高		429,456		426,732	
他勘定受入高	3	4,614,608		3,912,663	
計		24,151,933		26,947,834	
期末未成工事支出金繰越高		426,732		447,928	
当期完成工事原価		23,725,201		26,499,905	
当期商品売上原価		5,188,122		5,255,143	
当期製品売上原価		2,994,413		3,263,633	
当期売上原価合計		31,907,737		35,018,682	

(注)

前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)																								
<p>1 原価計算の方法 原価計算の方法は実際原価による個別原価計算を採用しております。</p> <p>2 経費の主な内訳は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>旅費交通費</td> <td>194,627千円</td> </tr> <tr> <td>運賃諸掛</td> <td>197,505</td> </tr> <tr> <td>リース料</td> <td>91,803</td> </tr> </table> <p>3 他勘定受入高の内訳は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>商品の使用高</td> <td>2,796,638千円</td> </tr> <tr> <td>製品の使用高</td> <td>1,027,278</td> </tr> <tr> <td>半製品及び仕掛品の使用高</td> <td>790,691</td> </tr> </table>	旅費交通費	194,627千円	運賃諸掛	197,505	リース料	91,803	商品の使用高	2,796,638千円	製品の使用高	1,027,278	半製品及び仕掛品の使用高	790,691	<p>1 原価計算の方法 同左</p> <p>2 経費の主な内訳は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>旅費交通費</td> <td>188,701千円</td> </tr> <tr> <td>運賃諸掛</td> <td>216,466</td> </tr> <tr> <td>リース料</td> <td>166,906</td> </tr> </table> <p>3 他勘定受入高の内訳は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>商品の使用高</td> <td>2,369,445千円</td> </tr> <tr> <td>製品の使用高</td> <td>802,583</td> </tr> <tr> <td>半製品及び仕掛品の使用高</td> <td>740,633</td> </tr> </table>	旅費交通費	188,701千円	運賃諸掛	216,466	リース料	166,906	商品の使用高	2,369,445千円	製品の使用高	802,583	半製品及び仕掛品の使用高	740,633
旅費交通費	194,627千円																								
運賃諸掛	197,505																								
リース料	91,803																								
商品の使用高	2,796,638千円																								
製品の使用高	1,027,278																								
半製品及び仕掛品の使用高	790,691																								
旅費交通費	188,701千円																								
運賃諸掛	216,466																								
リース料	166,906																								
商品の使用高	2,369,445千円																								
製品の使用高	802,583																								
半製品及び仕掛品の使用高	740,633																								

b【商品売上原価明細書】

		前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
区分	注記 番号	金額(千円)	金額(千円)
期首商品棚卸高		2,245,392	2,340,543
当期商品仕入高		8,079,912	7,692,243
計		10,325,304	10,032,787
他勘定振替高		2,796,638	2,369,445
期末商品棚卸高		2,340,543	2,408,198
当期商品売上原価		5,188,122	5,255,143

(注) 他勘定振替高は、工事への転用使用高であります。

c【製品売上原価明細書】

		前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
区分	注記 番号	金額(千円)	金額(千円)
期首製品棚卸高		513,185	489,422
当期製品製造原価		3,997,928	4,244,721
計		4,511,114	4,734,144
他勘定振替高		1,027,278	802,583
期末製品棚卸高		489,422	667,926
当期製品売上原価		2,994,413	3,263,633

(注) 他勘定振替高は、工事への転用使用高であります。

d【製品製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)		当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費		3,392,911	70.7	3,696,993	72.4
労務費		616,091	12.8	651,835	12.7
経費	2	790,641	16.5	764,367	14.9
当期総製造費用		4,799,645	100.0	5,113,196	100.0
期首半製品仕掛品棚卸高	3	593,124		604,149	
計		5,392,769		5,717,346	
他勘定振替高	4	790,691		740,633	
期末半製品仕掛品棚卸高	5	604,149		731,990	
当期製品製造原価		3,997,928		4,244,721	

(注)

前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)																												
<p>1 原価計算の方法 原価計算の方法は、実際原価による個別原価計算及び等級別、工程別総合原価計算であります。 なお、発生した原価差額については期末で調整を行っております。</p> <p>2 経費の主な内訳は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr> <td>支払手数料</td> <td>51,036千円</td> </tr> <tr> <td>外注加工費</td> <td>230,609</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td>146,349</td> </tr> </table> <p>3 期首棚卸高の内訳は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr> <td>半製品</td> <td>43,509千円</td> </tr> <tr> <td>仕掛品</td> <td>549,615</td> </tr> </table> <p>4 他勘定振替高は、工事への転用使用高であります。</p> <p>5 期末棚卸高の内訳は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr> <td>半製品</td> <td>55,686千円</td> </tr> <tr> <td>仕掛品</td> <td>548,462</td> </tr> </table>	支払手数料	51,036千円	外注加工費	230,609	減価償却費	146,349	半製品	43,509千円	仕掛品	549,615	半製品	55,686千円	仕掛品	548,462	<p>1 原価計算の方法 同左</p> <p>2 経費の主な内訳は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr> <td>支払手数料</td> <td>55,124千円</td> </tr> <tr> <td>外注加工費</td> <td>212,603</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td>144,393</td> </tr> </table> <p>3 期首棚卸高の内訳は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr> <td>半製品</td> <td>55,686千円</td> </tr> <tr> <td>仕掛品</td> <td>548,462</td> </tr> </table> <p>4 他勘定振替高は、工事への転用使用高であります。</p> <p>5 期末棚卸高の内訳は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr> <td>半製品</td> <td>54,559千円</td> </tr> <tr> <td>仕掛品</td> <td>677,431</td> </tr> </table>	支払手数料	55,124千円	外注加工費	212,603	減価償却費	144,393	半製品	55,686千円	仕掛品	548,462	半製品	54,559千円	仕掛品	677,431
支払手数料	51,036千円																												
外注加工費	230,609																												
減価償却費	146,349																												
半製品	43,509千円																												
仕掛品	549,615																												
半製品	55,686千円																												
仕掛品	548,462																												
支払手数料	55,124千円																												
外注加工費	212,603																												
減価償却費	144,393																												
半製品	55,686千円																												
仕掛品	548,462																												
半製品	54,559千円																												
仕掛品	677,431																												

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自2024年4月1日 至2025年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本									
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金			利益剰余金合計		
					固定資産圧縮積立金	特別償却準備金	繰越利益剰余金			
当期首残高	700,549	700,549	397,731	1,098,281	178,189	41,241	17,806,713	18,026,144	890,004	18,934,970
当期変動額										
剰余金の配当							335,055	335,055		335,055
当期純利益							3,562,062	3,562,062		3,562,062
固定資産圧縮特別勘定積立金の取崩					5,403		5,403	-		-
特別償却準備金の取崩						10,456	10,456	-		-
自己株式の取得									175	175
自己株式の処分										
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）										
当期変動額合計	-	-	-	-	5,403	10,456	3,242,866	3,227,006	175	3,226,831
当期末残高	700,549	700,549	397,731	1,098,281	172,786	30,785	21,049,580	21,253,151	890,180	22,161,802

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	713,763	713,763	19,648,734
当期変動額			
剰余金の配当			335,055
当期純利益			3,562,062
固定資産圧縮特別勘定積立金の取崩			-
特別償却準備金の取崩			-
自己株式の取得			175
自己株式の処分			
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	14,163	14,163	14,163
当期変動額合計	14,163	14,163	3,240,994
当期末残高	727,926	727,926	22,889,729

当事業年度（自2025年4月1日 至2026年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本									
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金			利益剰余金合計		
					固定資産圧縮積立金	特別償却準備金	繰越利益剰余金			
当期首残高	700,549	700,549	397,731	1,098,281	172,786	30,785	21,049,580	21,253,151	890,180	22,161,802
当期変動額										
剰余金の配当							603,188	603,188		603,188
当期純利益							4,971,873	4,971,873		4,971,873
固定資産圧縮特別勘定積立金の取崩					3,378		3,378	-		-
特別償却準備金の取崩						10,456	10,456	-		-
自己株式の取得									640	640
自己株式の処分			6,545	6,545					7,265	13,810
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）										
当期変動額合計	-	-	6,545	6,545	3,378	10,456	4,382,520	4,368,685	6,624	4,381,854
当期末残高	700,549	700,549	404,276	1,104,826	169,407	20,328	25,432,100	25,621,836	883,555	26,543,657

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	727,926	727,926	22,889,729
当期変動額			
剰余金の配当			603,188
当期純利益			4,971,873
固定資産圧縮特別勘定積立金の取崩			-
特別償却準備金の取崩			-
自己株式の取得			640
自己株式の処分			13,810
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	857,592	857,592	857,592
当期変動額合計	857,592	857,592	5,239,447
当期末残高	1,585,519	1,585,519	28,129,176

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

2. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 商品及び製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品

主として総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 未成工事支出金

個別法による原価法を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3～47年

構築物 5～50年

機械及び装置 2～17年

車両運搬具 4～7年

工具、器具及び備品 2～20年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

5. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権等の貸倒損失に備えるため一般債権については過去の貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員賞与の支出に備えるため、当事業年度における支給見込額に基づき計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えるため、当事業年度における支給見込額に基づき計上しております。

(4) 完成工事補償引当金

完成工事に係る将来の瑕疵補償に備えるため、過去の実績に基づきその発生見込額を計上しております。

(5) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（8年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（8～16年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

6. 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する、主要な事業における主な履行義務の内容および当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は、以下のとおりであります。

請負工事に関して、履行義務は一定の期間にわたり充足されると判断し、期間がごく短い工事を除き、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき収益を一定の期間にわたり認識しております。履行義務の充足に係る進捗度の見積りの方法は、見積総原価に対する発生原価の割合（インプット法）で算出しております。

なお、請負工事のうち、取引開始日から完全に履行義務を充足すると見込まれる時点までの期間がごく短い場合については、金額的重要性も鑑みて、収益認識に関する会計基準の適用指針第95項、第96項に定める代替的な取扱いを適用し、完全に履行義務を充足した時点（工事が完了した時点）で収益を認識しております。

保守点検および機器の据付等に関して、履行義務は保守点検および機器の据付等が完了した一時点において充足されると判断し、保守点検および機器の据付等の完了時点で収益を認識しております。

商品および製品の販売に関して、履行義務は顧客に商品および製品を引き渡した一時点で充足されると判断し、商品および製品の引き渡し時点で収益を認識しております。

なお、収益認識に関する会計基準の適用指針第98項に定める代替的な取扱いを適用し、国内販売において、出荷時から支配移転時までの間が通常の期間である場合には、商品および製品の出荷時に収益を認識しております。

7. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(重要な会計上の見積り)

一定の期間にわたり収益を認識する際の履行義務の充足に係る進捗度の見積り

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

(単位：千円)

	前事業年度	当事業年度
一定の期間にわたり充足される履行義務に係る収益認識額	25,505,169	30,317,509

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

連結財務諸表「注記事項（重要な会計上の見積り）(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報」の内容と同一であります。

関係会社役員に対する貸付金の回収可能性（貸倒引当金）

連結財務諸表「注記事項（重要な会計上の見積り）関係会社役員に対する貸付金の回収可能性（貸倒引当金）」の内容と同一であります。

（貸借対照表関係）

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行6行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
当座貸越極度額の総額	7,300,000千円	7,300,000千円
借入実行残高	1,100,000	1,100,000
差引額	6,200,000	6,200,000

（損益計算書関係）

1 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度43%、当事業年度42%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度57%、当事業年度58%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
従業員給料及び手当	2,020,442千円	2,076,721千円
賞与引当金繰入額	786,293	1,038,056
退職給付費用	57,256	69,639
減価償却費	52,665	51,135

2 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
受取事務手数料	128,883千円	123,686千円

3 固定資産除売却損の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
建物	46,942千円	77千円
構築物	0	0
機械及び装置	1,492	173
工具、器具及び備品	971	159
その他	1,295	-
計	50,701	410

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式

市場価格のない株式等の貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
子会社株式	3,697,140	3,687,140
関連会社株式	30,000	30,000

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金	2,748千円	2,909千円
未払費用	96,884	225,925
賞与引当金	400,075	542,933
未払事業税	39,961	109,255
完成工事補償引当金	39,833	54,466
退職給付引当金	204,860	382,498
棚卸資産評価損	236,194	390,907
減価償却費限度超過額	10,833	9,456
固定資産除却損	24,481	10,447
投資有価証券評価損	36,772	36,772
その他	42,365	53,151
繰延税金資産小計	1,135,011	1,818,724
評価性引当額	289,597	446,458
繰延税金資産合計	845,414	1,372,265
繰延税金負債		
前払年金費用	-	182,272
固定資産圧縮積立金	79,917	78,426
特別償却準備金	13,850	9,235
その他有価証券評価差額金	334,567	729,300
繰延税金負債合計	428,335	999,234
繰延税金資産の純額	417,078	373,031

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
法定実効税率	30.6%	法定実効税率と
(調整)		税効果会計適用後
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.4	の法人税等の負担
住民税均等割	0.7	率との間の差異が
評価性引当額の増減額	1.4	法定実効税率の100
税額控除	3.7	分の5以下である
その他	0.5	ため注記を省略し
税効果会計適用後の法人税等の負担率	26.1	ております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、連結財務諸表「注記事項(収益認識関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

(株式分割及び株式分割に伴う定款の一部変更)

連結財務諸表「注記事項(重要な後発事象)株式分割及び株式分割に伴う定款の一部変更」の内容と同一であります。

(当社株式に対する公開買付け)

連結財務諸表「注記事項(重要な後発事象)TCG2511株式会社による当社株式に対する公開買付けの結果及び親会社、主要株主及び主要株主である筆頭株主の異動」の内容と同一であります。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

		銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)
投資有価 証券	その他 有価証券	新日本空調(株)	684,000	2,229,840
		沖電気工業(株)	90,000	231,570
		A L S O K(株)	175,000	218,750
		櫻護謨(株)	34,600	105,357
		斎久工業(株)	116,000	77,720
		(株)第一ライフグループ	19,600	27,851
		(株)消火器リサイクル推進センター	40	20,000
		デンヨー(株)	6,000	20,580
		その他非上場株式(3銘柄)	590	295
計			1,125,830	2,931,963

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 却累計額又は 償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高(千円)
有形固定資産							
建物	3,783,083	194,463	2,447	3,975,098	1,777,701	159,243	2,197,396
構築物	497,268	2,330	635	498,963	374,829	14,874	124,133
機械及び装置	1,267,284	247,231	70,347	1,444,167	976,074	72,452	468,093
車両運搬具	29,484	-	-	29,484	29,372	103	112
工具、器具及び備品	1,243,218	84,158	62,119	1,265,257	1,069,766	80,508	195,490
土地	383,659	-	-	383,659	-	-	383,659
リース資産	32,987	-	-	32,987	26,449	2,593	6,537
建設仮勘定	117,647	498,527	536,317	79,857	-	-	79,857
その他	83,638	8,134	1,995	89,777	78,976	11,198	10,800
有形固定資産計	7,438,271	1,034,844	673,863	7,799,253	4,333,171	340,974	3,466,082
無形固定資産							
ソフトウェア	707,883	1,000	-	708,883	668,077	20,510	40,806
その他	4,055	16,425	1,000	19,480	-	-	19,480
無形固定資産計	711,939	17,425	1,000	728,364	668,077	20,510	60,286
長期前払費用	630	-	-	630	-	-	630

(注) 当期増減額のうち主なものは次のとおりであります。

増加	建物	第2研究所建設費用	116,311千円
	機械装置	消火器製造棟 充填ライン他	190,950千円
減少	機械装置	消火器充填設備	60,372千円

【引当金明細表】

(単位：千円)

区分	当期首残高	当期増加額	当期減少額 (目的使用)	当期減少額 (その他)	当期末残高
貸倒引当金(注)1.	8,922	9,797	2,070	7,419	9,229
賞与引当金	1,306,581	1,724,260	1,306,581	-	1,724,260
役員賞与引当金	32,082	40,251	32,082	-	40,251
完成工事補償引当金	130,089	201,378	158,667	-	172,800
退職給付引当金 (注)3.	675,398	125,802	143,232	-	657,968
役員退職慰労引当金 (注)2.	79,809	3,970	-	83,780	-

(注)1. 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、債権の回収に伴う取崩額及び洗替による戻入額であります。

2. 役員退職慰労引当金の「当期減少額(その他)」は、制度廃止に伴う長期未払金への振替額83,780千円であります。

3. 退職給付引当金は、前払年金費用との純額を記載しております。

(2)【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3)【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告の方法により行う。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告の方法により公告を することができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 当社の公告掲載URLは次のとおり。https://www.ndc-group.co.jp/
株主に対する特典(注)	該当事項はありません。

(注) 当社は、2026年5月13日付で公表いたしました「株主優待制度の廃止に関するお知らせ」に記載のとおり、TC G2511株式会社による当社の普通株式に対する公開買付けが成立することを条件に、当社の株主優待制度を廃止することを、同日開催の取締役会において決議いたしました。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第73期）（自2024年4月1日 至2025年3月31日）2025年6月25日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書

2025年6月25日関東財務局長に提出

(3) 半期報告書及び確認書

（第74期中）（自2025年4月1日 至2025年9月30日）2025年11月12日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

2025年6月30日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

2026年6月30日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号（親会社の異動）及び第4号（主要株主の異動）に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2026年6月30日

日本ドライケミカル株式会社

取締役会 御中

PwC Japan有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 平岡 伸也

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 並木 俊朗

< 連結財務諸表監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本ドライケミカル株式会社の2025年4月1日から2026年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本ドライケミカル株式会社及び連結子会社の2026年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

強調事項

【注記事項】（重要な後発事象）に記載されているとおり、会社は、2026年5月13日開催の取締役会において、TCG 2511株式会社による会社の普通株式に対する公開買付けに賛同の意見を表明するとともに、会社の株主に対して、本公開買付けへの応募を推奨することを決議した。

本公開買付けは、2026年5月14日から2026年6月29日まで実施され、会社は公開買付者より、本公開買付けに応募された当社株式の数の合計が買付予定数の下限（13,465,700株）以上となったため、本公開買付けは成立した旨の報告を受けている。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

一定の期間にわたり収益を認識する際の履行義務の充足に係る進捗度の見積りの合理性	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>会社は各種防災設備の設計・施工・保守点検、消火器及び消火設備、消防自動車、自動火災報知設備の製造・販売等、幅広く防災にかかわる事業を行っている。</p> <p>【注記事項】（連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項）4．会計方針に関する事項（5）重要な収益及び費用の計上基準に記載のとおり、会社は、請負工事に関して、履行義務は一定の期間にわたり充足されると判断し、期間がごく短い工事を除き、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき収益を一定の期間にわたり認識している。履行義務の充足に係る進捗度の見積りの方法は、見積総原価に対する発生原価の割合（インプット法）で算出している。</p> <p>【注記事項】（重要な会計上の見積り）一定の期間にわたり収益を認識する際の履行義務の充足に係る進捗度の見積りに記載のとおり、2026年3月期において一定の期間にわたり充足される履行義務に係る収益認識額は32,775,784千円（連結売上高の54.2%）である。</p> <p>見積総原価は、工事の作業内容の詳細に基づいて合理的に見積もる必要があり、契約時の外注費、材料費及び人件費見積り等を基礎とし、工事の過程における変動を反映しているものの、契約後の外注費や材料費の高騰及び追加的な作業や工事内容の変更等の想定していなかった変動が生じる可能性がある。</p> <p>そのため、工事の作業内容の詳細に基づいて見積総原価を見積もる際には、経営者による判断が伴い、外注費や材料費の高騰及び追加的な作業や工事内容の変更等の情報を適時かつ適切に見直すことが必要である。当監査法人は、一定の期間にわたり充足される履行義務における見積総原価の見積りの合理性が、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において特に重要であることから、監査上の主要な検討事項に該当すると判断した。</p>	<p>当監査法人は、見積総原価の見積りに係る会社の内部統制について十分な理解を行うとともに、見積総原価の見積りの承認と見積総原価の適時かつ適切な見直しに係る内部統制の整備・運用状況について評価を行った。</p> <p>加えて、当監査法人は一定の期間にわたり充足される履行義務における見積総原価の見積りの合理性を検討するに当たり、主として以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会社が作成している実際工事進捗率に関する分析資料を査閲し、異常な工事進捗率の工事件件の有無を調査した。 ・当連結会計年度末までに完成した工事件件について、当初の見積総原価と実際発生原価総額を比較し、差異原因を調査した。 ・当連結会計年度末において進行中の工事件件のうち、工事の性質及び金額の重要性を勘案してサンプルを抽出し、以下の各手続を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> - 工事に関する会議資料や工事の進捗状況に関連する資料を閲覽し、見積総原価の見直しの判断について工事担当者へ質問した。 - 本社営業本部長が承認した原価明細等と一定の期間にわたり充足される履行義務の計算資料に含まれる見積総原価を照合した。 - 見積工事原価の積算を行った工事担当者への質問を行うとともに、材料費及び外注費についてはサプライヤーからの見積書等の根拠資料と突合した。 - 人件費見積り等については、見積の基礎となる工程表等の資料を閲覽し、それらに基づいて算定されていることを確かめた。

関係会社役員に対する貸付金の回収可能性（貸倒引当金）	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>【注記事項】（重要な会計上の見積り）関係会社役員に対する貸付金の回収可能性（貸倒引当金）に記載のとおり、会社は2026年3月31日現在の連結貸借対照表上に、関係会社の役員（以下、「同氏」）に対する短期貸付金83,840千円（800,000千ウォン）、長期貸付金2,892,480千円（27,600,000千ウォン）を計上しており、総資産の5.2%を占めている。当該貸付金の返済期限は2029年12月末に設定されており、返済期限までに毎期定められた金額を返済することとなっている。また、当該貸付金に対しては、同氏の保有するMasteco Industry Co., Ltd.</p> <p>（以下、「Masteco」）株式（議決権比率で51.4%）が担保の対象となっている。</p> <p>当該貸付金残高は、【関連当事者情報】（1）連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引「（ウ）連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等」に記載のとおり、Mastecoの代表理事に対する貸付金である。</p> <p>会社は、2026年3月末現在の当該貸付金の回収可能性について、Mastecoの将来事業計画を元に算定したMasteco株式の処分見込額としての実質価額を評価した結果、回収可能性があると判断し、貸倒引当金を計上していない。</p> <p>当該貸付金の回収可能性を評価する際に実施した、Mastecoの実質価額評価の基礎となっている成長率、利益率（売上原価率）、割引率等に関して経営者による重要な判断が含まれている。</p> <p>そのため、監査上慎重な対応が必要となることから、当監査法人は、当該貸付金の回収可能性を監査上の主要な検討事項に該当すると判断した。</p>	<p>当監査法人は貸付金の回収可能性に係る会社の内部統制について十分な理解を行うとともに、同氏に対する貸付金の回収可能性に係る内部統制の整備・運用状況について評価を行った。</p> <p>加えて、当監査法人は同氏に対する貸付金の回収可能性を検討するため、会社が算定したMasteco株式の実質価額について、主に以下の手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同氏が保有するMasteco株式の実質価額算定方法について会社担当者に対して質問を行った。 ・Mastecoの過年度計画数値と実績数値との比較検討を実施した。 ・取締役会で承認されたMastecoの事業計画とMastecoの実質価額評価の基礎となる将来キャッシュ・フロー数値の比較検討を実施した。 ・Mastecoの実質価額評価の基礎となる将来キャッシュ・フローの見積りにおいて重要な仮定である成長率、利益率（売上原価率）、割引率について感応度分析を行い、それぞれの影響度を検討した。 ・Mastecoの実質価額評価の基礎となる将来キャッシュ・フローの見積りにおける重要な仮定について、主に以下の手続を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> - 成長率については、会社担当者への質問、根拠資料の閲覧、過年度の実績率との比較分析及び同業他社との比較分析を実施した。 - 利益率（売上原価率）については、会社担当者への質問、過年度の実績率との比較分析を実施した。 - 割引率については、会社担当者への質問、割引率算定に利用されている主なデータについて根拠資料との照合を実施した。 ・貸付金の契約内容を確認し、当期に返済を受けた金額については、関連する証憑を閲覧した。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、連結財務諸表の監査を計画し実施する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

< 内部統制監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、日本ドライケミカル株式会社の2026年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、日本ドライケミカル株式会社が2026年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

内部統制報告書に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、内部統制の監査を計画し実施する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

< 報酬関連情報 >

当監査法人及び当監査法人と同一のネットワークに属する者に対する、会社及び子会社の監査証明業務に基づく報酬及び非監査業務に基づく報酬の額は、「提出会社の状況」に含まれるコーポレート・ガバナンスの状況等(3)【監査の状況】に記載されている。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2026年6月30日

日本ドライケミカル株式会社

取締役会 御中

PwC Japan有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 平岡 伸也

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 並木 俊朗

< 財務諸表監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本ドライケミカル株式会社の2025年4月1日から2026年3月31日までの第74期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本ドライケミカル株式会社の2026年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

強調事項

【注記事項】（重要な後発事象）に記載されているとおり、会社は、2026年5月13日開催の取締役会において、TCG 2511株式会社による会社の普通株式に対する公開買付けに賛同の意見を表明するとともに、会社の株主に対して、本公開買付けへの応募を推奨することを決議した。

本公開買付けは、2026年5月14日から2026年6月29日まで実施され、会社は公開買付者より、本公開買付に応募された当社株式の数の合計が買付予定数の下限（13,465,700株）以上となったため、本公開買付けは成立した旨の報告を受けている。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

一定の期間にわたり収益を認識する際の履行義務の充足に係る進捗度の見積りの合理性

会社は、【注記事項】（重要な会計上の見積り）一定の期間にわたり収益を認識する際の履行義務の充足に係る進捗度の見積り（1）当事業年度の財務諸表に計上した金額に記載されているとおり、一定の期間にわたり充足される履行義務に係る収益を30,317,509千円(売上高の61.8%)計上している。

監査上の主要な検討事項の内容、決定理由及び監査上の対応については、連結財務諸表の監査報告書に記載されている監査上の主要な検討事項（一定の期間にわたり収益を認識する際の履行義務の充足に係る進捗度の見積りの合理性）と同一内容であるため、記載を省略している。

関係会社役員に対する貸付金の回収可能性（貸倒引当金）

連結財務諸表の監査報告書に記載されている監査上の主要な検討事項（関係会社役員に対する貸付金の回収可能性（貸倒引当金））と同一内容であるため、記載を省略している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

< 報酬関連情報 >

報酬関連情報は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。